

豊中市環境報告書

とよなかの環境

～2022 年度評価と今後に向けて～



令和6年（2024年）3月



目次

第1章 環境基本計画の進行管理について.....	1
1. はじめに	1
2. 第3次豊中市環境基本計画の位置付け	1
3. 計画の進行管理	2
4. SDGs と環境基本計画の関係性.....	2
5. 第3次豊中市環境基本計画の施策体系	3
第2章 環境目標の進ちよく状況等について.....	4
1. 環境目標に対する進ちよく状況の見方	4
2. 環境目標の進ちよく状況	5
3. 環境審議会や市民等の意見に対する市の考え方	15
(1) パネル展におけるアンケート	15
(2) 環境審議会や市民等の意見に対する市の考え方	16
4. 令和5年度（2023年度）以降の主な事業.....	21
●令和5年度（2023年度）の実施事業.....	21
●令和6年度（2024年度）の事業.....	26
第3章 環境に関する情報発信	30
1. 解説コーナー	30
2. 動画コンテンツ	32
3. 環境イベント	33
第4章 用語解説	36

第1章 環境基本計画の進行管理について

1.はじめに

「とよなかの環境～2022年度評価と今後に向けて～」は、平成30年（2018年）3月に策定した「第3次豊中市環境基本計画」の年度報告書となります。

豊中市では、環境目標に対する令和4年度（2022年度）の進ちょく状況として、令和5年（2023年）8月に「とよなかの環境～2022年度速報版～」を公表いたしました。「とよなかの環境～2022年度評価と今後に向けて～」は、環境審議会や市民のみなさんからのご意見に対する市の考え方および次年度の計画（プラン）についてお示しするものです。

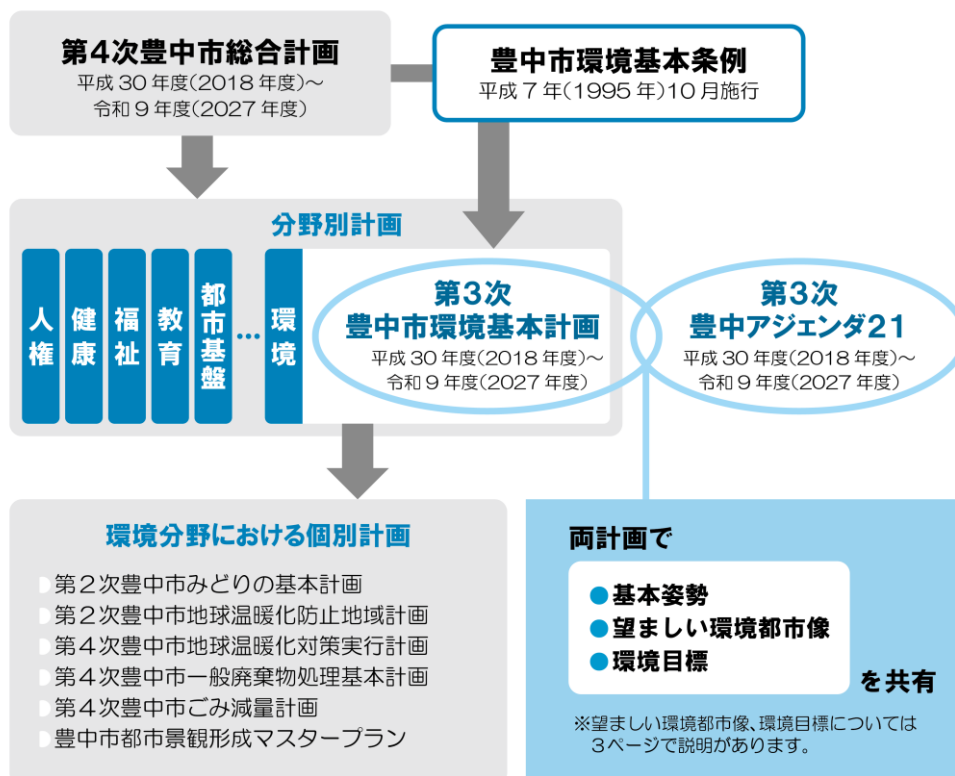
なお、関連するデータについては「とよなかの環境～2022年度評価と今後に向けて～（資料編）」に掲載しています。

2.第3次豊中市環境基本計画の位置付け

「第3次豊中市環境基本計画」は、「第4次豊中市総合計画」の環境分野の計画として、総合計画に掲げる様々な施策と共通の考えのもと、各分野における個別計画と整合を図っております。

また、令和3年度には「第2次豊中市地球温暖化防止地域計画」、令和4年度には「第3次豊中市環境基本計画」、「第4次豊中市地球温暖化対策実行計画」、「第4次豊中市一般廃棄物処理基本計画」の見直しを実施しました。

「第3次豊中アジェンダ21」は、市民・事業者・行政が協働とパートナーシップで進める地球環境を守るための行動計画であり、「第3次豊中市環境基本計画」と「基本姿勢」「望ましい環境都市像」「環境目標」を共有しています。



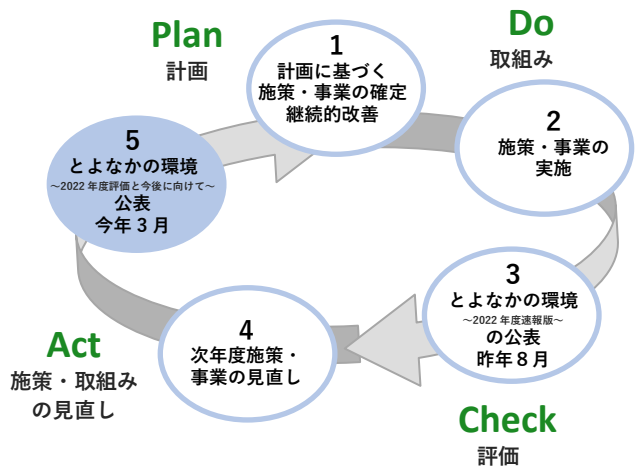
3. 計画の進行管理

「第3次豊中市環境基本計画」を着実に推進するため、PDCAサイクル〔計画（Plan）→ 取組み（Do）→ 評価（Check）→ 施策・取組みの見直し（Act）〕によって毎年度、環境目標の達成状況について評価・公表を行っています。

とよなかの環境は、下図のとおり前年度の進ちょく状況について「とよなかの環境～2022年度速報版～」を公表し、市民のみなさんの意見を募集します。さらに、環境審議会と市民のみなさんからのご意見やご提案をもとに次年度の施策・事業の見直しを行い、年度報告書として「とよなかの環境～2022年度評価と今後に向けて～」を公表します。このように計画の進行管理のなかで改善を図りながら、環境目標の実現をめざして取り組んでいます。

豊中市では、環境基本計画の進行管理を行う上で、「とよなかの環境～2022年度速報版～」をホームページ等にて公表し、施策の進ちょく状況等に対する意見を33件いただきました。

15ページ以降には、環境審議会や市民のみなさんからいただいたご意見の一部を紹介するとともに、施策や事業の見直しを含めた、「市の考え方」を示しています。



4. SDGs と環境基本計画の関係性

市では「第4次豊中市総合計画 基本構想」の中でまちの将来像「みらい創造都市とよなか～明日がもっと楽しみなまち～」をめざして、取組みを進めています。令和2年度（2020年度）には、「SDGs 未来都市」に選定され、提案内容を具体化する「SDGs 未来都市計画」を策定し、国と連携しながら、持続可能な開発目標 SDGs 全17の目標の達成に向けて、「誰一人取り残さない社会の実現」をめざしています。

「第3次豊中市環境基本計画」では、職員一人ひとりがSDGsの目標の達成に向けて取り組むとともに、市民のみなさんへチラシを配布する際やこの報告書等においてもSDGsのマークを付けるなどあらゆる機会において周知しています。



5. 第3次豊中市環境基本計画の施策体系

望ましい環境都市像のさまざまな視点から捉えられたまちの像、環境分野の各目標は互いに関連しています。

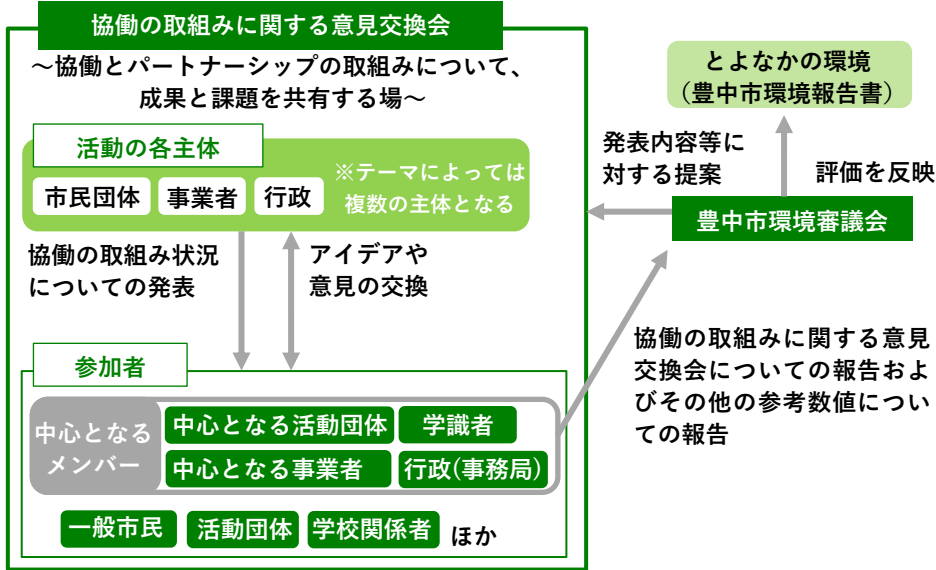


第2章 環境目標の進ちょく状況等について

1. 環境目標に対する進ちょく状況の見方

目標 1

協働とパートナーシップの取組みに対する評価のプロセス



協働とパートナーシップの進行管理

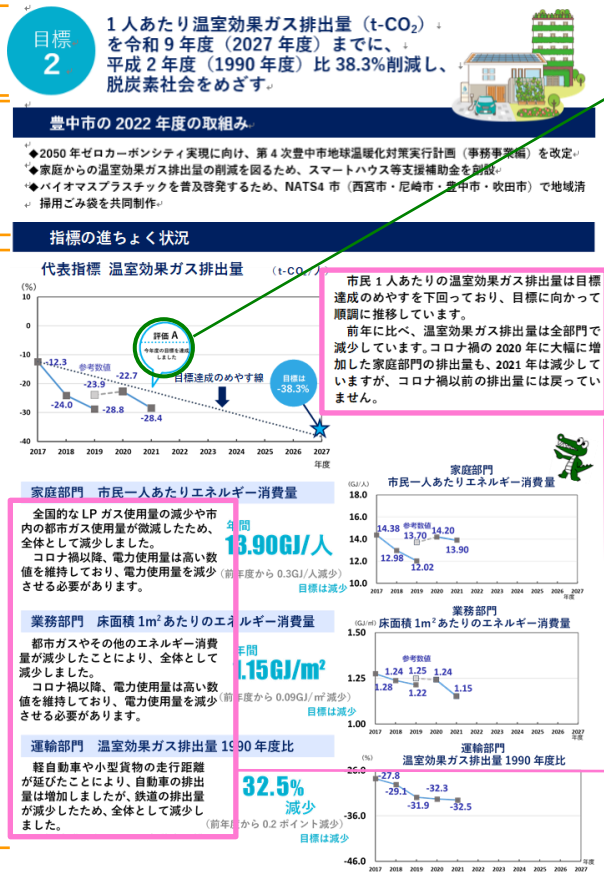
多様な主体のパートナーシップの取組み成果や課題を共有する「協働の取組みに関する意見交換会」を毎年開催しています。

進ちょく評価

「環境情報の提供」をテーマに実施した「協働の取組みに関する意見交換会」での一部の内容を紹介しています。

目標 2～5

- 環境目標**
各環境分野ごとに環境目標を設定しています。
- 市の取組み**
市の主な取組み内容を紹介しています。
- 指標の進ちょく状況**
代表指標は目標達成に最も影響を与えるものです。その他の指標は、代表指標を補完または影響を与えるものです。



評価の判断基準

環境基本計画の進行管理として、目標2・4は、代表指標にめやす線をひいています。めやす線と数値の関係や前年度との比較でA～Dをつけています。

目標3は、第4次豊中市一般廃棄物処理基本計画の年度目標値に比較して評価をつけています。

A	今年度の目標を達成しました 目標達成のめやす以下かつ前回値以下
B	今年度の目標を達成しましたが、さらに努力が必要です 目標達成のめやす以下かつ前回値より大きい
C	改善の傾向にありますが、更なる努力が必要です 目標達成のめやすより大きく、前回値以下
D	改善の傾向がありません 目標達成のめやすより大きく、前回値より大きい

目標5は、すべての環境基準を達成した場合「A」、達成していない場合「D」をつけています。

要因分析
代表指標および指標が「どうしてこのような結果になったのか」を市で要因分析しています。

2. 環境目標の進ちょく状況

目標 1

よりよい環境をめざして多様な主体の
パートナーシップで取り組む



豊中市の2022年度の取組み

- ◆「持続可能な脱炭素社会づくり」など各環境分野における指標や施策事業の見直しを踏まえ、「第3次豊中市環境基本計画」を改定
- ◆動画共有サイトYouTube「とよなか環境TV」にて、随時環境に関する情報を発信

家庭でできること

環境教育・環境学習を活用しよう

YouTube「とよなか環境TV」にて環境に関する動画を紹介しているほか、学校などでの環境学習、市ホームページ等でも環境情報を発信していますので、暮らしの中で活用してみましょう。

また、環境に関する市のイベントや地域の環境活動に積極的に参加してみましょう。

事業所でできること

環境への取組み情報を様々なツールを使って公開しよう

環境問題に取り組むことと、その取組みを広く発信することは、これからの事業活動の発展に欠かせない重要なアクションです。脱炭素等の環境活動に取り組んだことをホームページやSNSなどを使って、アピールしましょう。

取組紹介

アジェンダ21 チャレンジカードへの取組み

ボーイスカウト豊中協議会



ボーイスカウト豊中協議会では、環境に関する考え、学び、実行することで環境を守るために、「アジェンダ21 チャレンジカード」を作成し、市内で活動する各団で取り組んでいます。環境のために行動しポイントを貯めることでバッジが貰えるため、楽しみながら地域の環境に貢献しています。

SDGs 学習会の実施

生活協同組合コープこうべ大阪北地区本部

コープこうべでは、環境や社会のためになる活動・事業モデルの促進を進めるために、様々な環境に関する取組みを実施しています。大阪北地区本部では、市立蛸池公民館で、小学生を対象にTシャツが作られる過程とSDGsについての学習会を実施しました。



環境審議会評価

- ・環境情報の提供の視点で意見交換をした結果、課題として、若い世代とのつながりの確保や、担い手の確保が挙げられました。今後は、伝えたい対象に合わせた様々な情報発信手法を選択していく必要があります。
- ・今回の意見交換会の議論から、さまざまな主体がそれぞれの協働や利用者に合わせた情報発信を行っており、つながりを広げていることなどが豊中市の特長といえます。また、多様な人々が協働でつながることで、単独では難しかった課題が解決したり、協働で取り組むことを通じて、子育て世代の孤立化防止や家庭へのリサイクルの拡大などの副次的な効果も生まれています。更に、活動団体同士が交流することで、新たな協働につながるほか、幅広い世代の幸福につながる可能性も示されました。こういった成果を広く共有することで、より協働の取組みが進んでいくと思われれます。

2022年度の協働の進ちょく状況

「協働の取組みに関する意見交換会」のテーマは
「環境情報の提供」です。

協働の取組み紹介

子育て世代への SNS を通した情報発信

赤ちゃんからの ESD coral

子ども服のお下がり品の回収・譲渡や子育て世代を対象にしたワークショップの実施。
 SNSを活用し、お下がり品の紹介や他団体が実施するイベントの情報を発信。



花とみどりの相談所での活動を通した情報発信

豊中緑化リーダー会

「緑化リーダー養成講座」を修了したメンバーで、豊島公園の花とみどりの相談所を中心に花壇活動、育苗した苗の配布やイベントを開催。
 緑化を通じた就業支援や環境学習を実施。



太陽光発電等のホームページやイベント等を通した情報発信

豊中市民エネルギーの会

保育所の屋根に太陽光発電設備を設置し、運営管理を行う。
 また、小学校・幼稚園での環境に関する出前授業や、ベランダに設置できる小規模な発電設備の普及活動を実施。



学校でのリサイクル、環境学習を通した情報発信

豊中市環境部家庭ごみ事業課 豊中市立新田小学校

小学4年生を対象とした収集車を用いたごみ分別の環境学習をきっかけに、児童が中心となって牛乳パックのリサイクルを実施。家族や他学年へリサイクルの取組みを発信。



成果・課題

- 子どもたちを通してリサイクルの取組みが家庭にも広がった。
- SNSで他団体の子育て支援情報を発信することで、子育て世代の孤立化を防ぐ活動につながった。
- 若い世代とのつながりの確保や社会構造の変化に対応した担い手の確保が課題。

今後の展望、活動のヒント

- 広域での子ども服回収・譲渡の仕組みづくり
 公共施設でのお下がり品の回収・譲渡ができれば、遠くに出向くことなくお下がり品を入手できる。
- 少子高齢化社会への対応
 小中高生と高齢者の橋渡しを行うことで、高齢者の孤立化防止や健康寿命を支え、両者の幸福に貢献。
- 「子どもたちのやりたいこと」を生かした協働
 小学生が自ら取組み、発信することで自信につながり、次の環境に関する活動へ意識が向けられていく。1つでも多くの小学校に活動を広げることで周囲にも活動が広がっていく。
- 協働による課題の解決
 協働を行うことで問題の解決や相互の活動情報の発信が行われる。

目標 2

1人あたり温室効果ガス排出量（t-CO₂）を令和9年度（2027年度）までに、平成2年度（1990年度）比38.3%削減し、脱炭素社会をめざす



豊中市の2022年度の取組み

- ◆2050年ゼロカーボンシティ実現に向け、第4次豊中市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）を改定
- ◆家庭からの温室効果ガス排出量の削減を図るため、スマートハウス等支援補助金を創設
- ◆バイオマスプラスチックを普及啓発するため、NATS4市（西宮市・尼崎市・豊中市・吹田市）で地域清掃用ごみ袋を共同制作

家庭でできること

エネルギー消費量削減に取り組もう

冷暖房に係るエネルギー消費が全体の約15%を占めており、家屋の断熱性を高めたり、外部からの熱負荷を軽減することで、冷暖房効率が向上し、エネルギーの使用量を減らすことができます。また、照明や家電製品の電源オフなどの節電や省エネ家電への買い替えでも減らすことができます。



事業所でできること

ゼロエミッション自動車を導入しよう

ゼロエミッション自動車は走行中にCO₂を排出しない自動車で、電気自動車や燃料電池自動車のことです。豊中市役所では、燃料電池自動車「MIRAI」を導入するとともに、公用車の電気自動車の導入も進めています。自動車を購入するときは、事業者向けの電気自動車購入支援補助金などを活用して、ゼロエミッション自動車を選択しましょう。

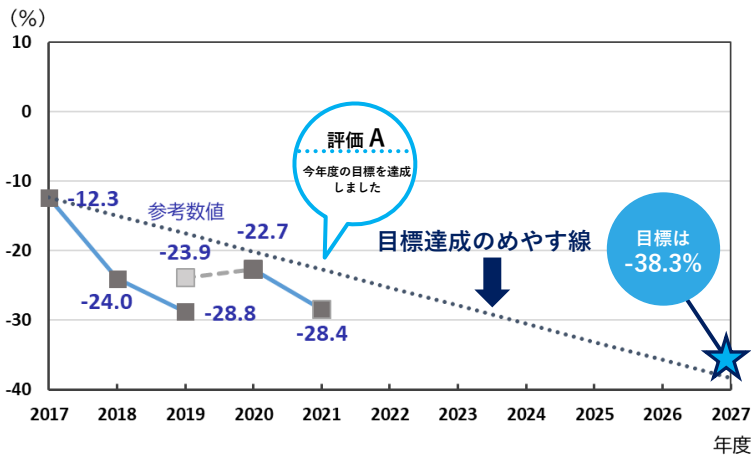


環境審議会評価

- ・温室効果ガス排出量はすべての部門で前年度から減少し、1人あたり温室効果ガス排出量の目標達成に向け順調に進んでいると判断できます。しかしながら、コロナ禍で大幅に増加した家庭部門の温室効果ガスは前年に比べ減少していますが、いまだコロナ禍以前の数値には戻っていません。家庭で電力使用量を減少させるための取組みや普及啓発が必要です。
- ・運輸部門の温室効果ガス排出量は前年度から減少していますが、自動車の排出量自体は増加しています。長期的にみると温室効果ガスが増加する懸念があるため、自動車の排出量を減らす取組みが必要です。
- ・2050年ゼロカーボンの達成に向けて、めざすべき方向性をしっかりと見すえて、建物や設備機器の省エネルギー化や再生可能エネルギーの活用などのハード面の取組みを着実に推進するとともに、日常的な取組みを徹底する意識を醸成するなど、ソフト面での取組みも推進する必要があります。

指標の進ちょく状況

代表指標 温室効果ガス排出量 (t-CO₂/人)



市民 1 人あたりの温室効果ガス排出量は目標達成のめやすを下回っており、目標に向かって順調に推移しています。

前年に比べ、温室効果ガス排出量は全部門で減少しています。コロナ禍の 2020 年に大幅に増加した家庭部門の排出量も、2021 年は減少していますが、コロナ禍以前の排出量には戻っていません。



家庭部門 市民一人あたりエネルギー消費量

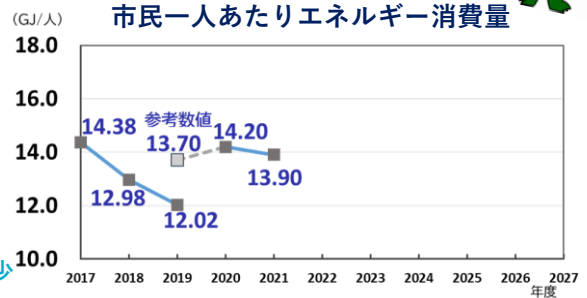
全国的な LP ガス使用量の減少や市内の都市ガス使用量が微減したため、全体として減少しました。

コロナ禍以降、電力使用量は高い数値を維持しており、電力使用量を減少させる必要があります。

年間 **13.90GJ/人**

目標は減少

家庭部門 市民一人あたりエネルギー消費量



業務部門 床面積 1m²あたりのエネルギー消費量

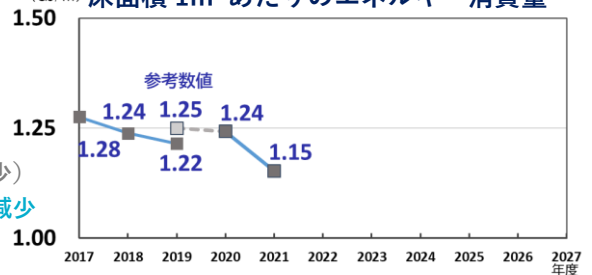
都市ガスやその他のエネルギー消費量が減少したことにより、全体として減少しました。

コロナ禍以降、電力使用量は高い数値を維持しており、電力使用量を減少させる必要があります。

年間 **1.15GJ/m²**

目標は減少

業務部門 床面積 1m²あたりのエネルギー消費量



運輸部門 温室効果ガス排出量 1990 年度比

軽自動車や小型貨物の走行距離が延びたことにより、自動車の排出量は増加しましたが、鉄道の排出量が減少したため、全体として減少しました。

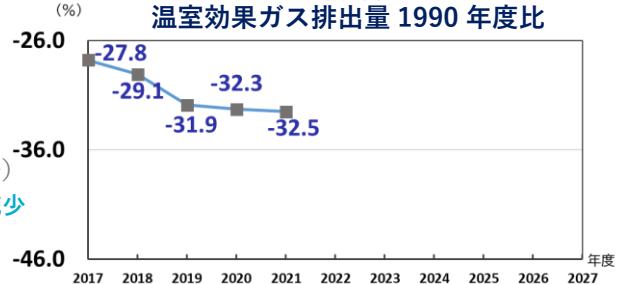
目標達成のためには、自動車の排出量を減少させる必要があります。

32.5% 減少

(前年度から 0.2 ポイント減少)

目標は減少

運輸部門 温室効果ガス排出量 1990 年度比



指標	目標	前回値 2020 年度	直近値 2021 年度	
部門別温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)平成 2 年度(1990 年度)比(%) ^{*1}	家庭部門	減少	+4.6	-5.0
	業務部門	減少	-3.6	-15.5
	運輸部門	減少	-32.3	-32.5
	産業部門	減少	-62.2	-64.0
	廃棄物部門	減少	+5.1	+4.4
再生可能エネルギー等設備導入量(kW)	増加	25,332	26,923	
市民 1 人あたり自家用車の登録台数 (台/人)	減少	0.245	0.247	
市内に登録された自動車 1 台あたりの 温室効果ガス排出量(t-CO ₂ /台)	減少	1.40	1.41	
市内に登録された自家用車のうち電気 自動車等の割合 (%)	増加	23.0%	24.8%	

※ 2020 年度以降、市域の部門別消費電力量のデータの出典が変更となったことから、2019 年度以前の推計値と非連続になっています。そのため、2019 年度の数値は、2019 年度から 2020 年度の全国的な消費電力量変化が豊中市においても生じたと想定して参考数値を算出しています。

目標
3

発生抑制・再使用と質の高いリサイクル（再生利用）の推進により、ごみの焼却処理量を令和9年度（2027年度）までに平成28年度（2016年度）比8%削減し、循環型社会の構築をめざす



豊中市の2022年度の取組み

- ◆廃棄物を取り巻く社会情勢の変化などに対応するため、第4次豊中市一般廃棄物処理基本計画ならびに第4次豊中市ごみ減量計画を改定
- ◆マイボトルの利用促進及びペットボトル削減による環境課題の解決をめざし、鉄道駅構内における給水機設置の実証実験を官民連携で実施
- ◆環境保全意識の向上を図るため、マチカネポイントを活用した豊中エコショップ周知キャンペーンを実施

家庭でできること

市内公共施設の給水機を利用しよう

ペットボトルの使用削減に向け、市では給水スポットの拡大に取り組んでおり、市内8か所の公共施設に給水機を設置しています。また、阪急岡町駅構内にも設置されていますので、マイボトルを持ってご利用ください。



詳しくは、こちらの二次元コードから→

https://www.city.toyonaka.osaka.jp/kurashi/gomi_ri saikuru_bika/gomi_recycl_bika_to/kyusuiki.html

事業所でできること

捨てていませんか！

雑がみリサイクルのすすめ

「雑がみ」とは、新聞・雑誌・段ボール・飲料用紙パック以外の資源化可能な紙類のことです。メモ用紙や封筒、トイレトペーパーの芯などは資源化することが可能です。雑がみの分別を徹底すれば可燃ごみの削減につながります。雑がみの回収や排出方法は、古紙回収業者に相談しましょう。

取組紹介

フードドライブボックスの常設

(株)ダイエー daiei

「ダイエー」ではご家庭で消費されずに余っている食品を店舗で集めて子ども食堂などに活用する「フードドライブ」を実施しています。2023年6月からは豊中庄内、豊中駅前、曾根、庄内の4店舗でフードドライブボックスを常設化しました。



子ども服リユースの実施

公益財団法人とよなか国際交流協会



豊中市では、着なくなったまだ使える子ども服を集め、必要な人に提供する子ども服リユースを推進しています。

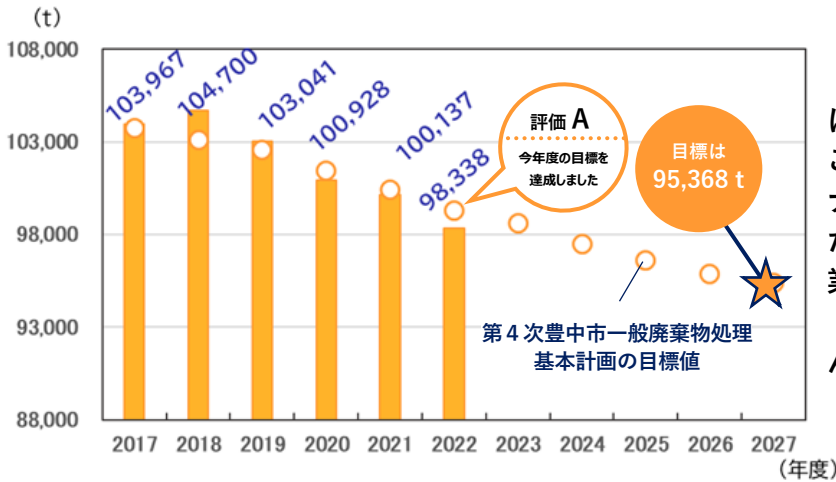
とよなか国際交流協会では管理しているとよなか国際交流センターに子ども服のコーナーを設置し、リユースを推進しています。

環境審議会評価

- ・令和2年度（2020年度）以降、コロナ禍の影響により生活環境が一変し、自宅で過ごす機会が増えたことから、家庭系ごみの排出量が増加する一方で、事業系ごみは減少しました。令和4年度（2022年度）ごろにはWithコロナが定着し、人びとの外出機会が増えたことで家庭系ごみ排出量は減少、事業系ごみは増加しましたが、事業者のごみ減量の取組みにより、微増となっています。事業系ごみは今後も増加する可能性があり、引き続き、ごみの減量に向け、効果的な施策に取り組む必要があります。
- ・宅配やテイクアウトの利用減少に伴い、容器包装等の使用が減ったこともあり、リサイクル率は減少しています。
- ・今後も景気や人々の動向等による排出量の変化を注視しながら、目標達成をめざし、ごみ減量施策を推進する必要があります。

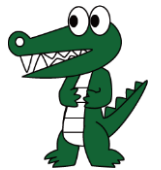
指標の進ちょく状況

代表指標 焼却処理量 (t)



新型コロナウイルス感染症拡大当初は、家庭系ごみが増加する一方、事業系ごみが減少する傾向でしたが、With コロナが定着し、人びとの外出の機会が増えたことにより、家庭系ごみが減少し、事業系ごみがわずかに増加しました。

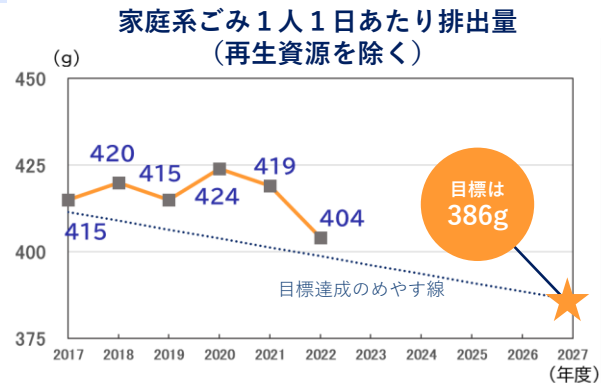
総量で見ると、ごみの減量は着実に進んでいます



家庭系ごみ1人1日あたり排出量 (再生資源を除く)

前年度から減少しています。原因として With コロナが定着し、人びとの外出の機会が増えるとともに、市民に対するごみ減量への意識啓発に関する事業の推進などが考えられます。

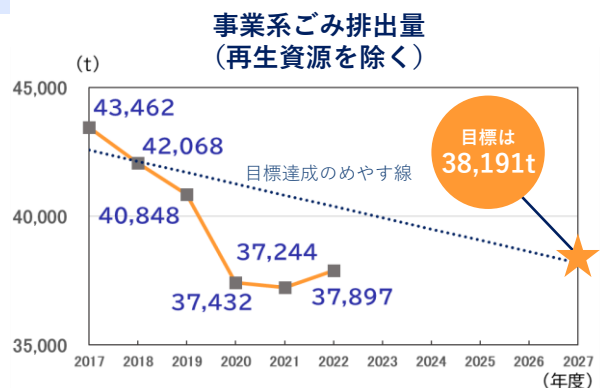
年間 **404g**
(対前年 5.0g 減少)
目標値は約 386g



事業系ごみ排出量 (再生資源を除く)

前年度から増加しています。事業活動が徐々に回復を見せ、事業系のごみの量も増加に転じましたが、事業者のごみ減量の取組みにより上昇幅は抑えられたと考えられます。

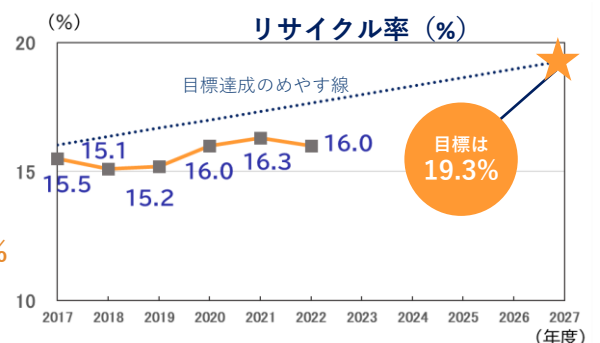
年間 **37,897t**
(対前年 653t 増加)
目標値は約 38,191 t



リサイクル率

前年度から減少しています。原因として、人びとの外出機会の増加に伴い、宅配やテイクアウトの需要が減り、容器包装等の使用が減ったこと等が考えられます。

年間 **16.0%**
(対前年 0.3ポイント減少)
目標値は約 19.3%



目標
4

みどり率 27%で
心豊かな豊中らしいまちをめざす



豊中市の 2022 年度の取組み

- ◆市民の緑化活動を支援するため、新たに緑化助成金制度を策定するとともに、既存制度を拡充
- ◆新型コロナウイルス感染症防止対策を行い、みどりに関するイベントとしてふれあい緑地フェスティバルを開催
- ◆豊中市内郵便局と連携し、美しいまちづくりを推進するため、市内における不法投棄を防止する取組みを開始

家庭でできること

3軒からのご近所緑化支援制度

自宅等でガーデニングや鉢植えでお花を育てる、ご近所3軒以上で作ったグループに、花苗や肥料など資材の購入費の半額を助成します。

詳しくは、こちらの二次元コードから→

https://www.city.toyonaka.osaka.jp/machi/kouen_midori/shizen/3gen.html



事業所でできること

屋上緑化に取り組んでみませんか

地球温暖化や都市部のヒートアイランド現象の緩和のほか、会社や病院の屋上などで、みどりによる癒しやコミュニケーションの場として、屋上での庭園や菜園づくりなどの屋上緑化が見直されています。

取組
紹介

秋の鳴く虫観察会

豊中生物同好会

服部緑地公園には多くの生き物が暮らしています。中には様々な鳴き声を持つ昆虫もいます。豊中生物同好会では、秋の夜に鳴く虫の観察会で講師を派遣しています。



地域清掃活動に取り組んでみませんか

美化推進課

市内の道路など身近な公共の場所をボランティアで地域清掃活動に取り組んでいただいています。こうした地域清掃活動に対し、ごみ袋の配布、清掃道具の貸出し、清掃後のごみの収集を行っています。

環境審議会評価

- ・2022年度は、みどり率、緑被率、みどりに対する満足度の調査は行っていませんが、前回の調査結果を踏まえ、今後もみどりの育成と保全を行うとともに、市民に親しまれるとよなかのみどりの啓発を行っていく必要があります。
- ・みどりに関するイベント参加者数は、引き続きコロナ禍の影響によるイベント等の縮小や来場制限で減少傾向にあるものの、3年ぶりの野外イベント開催等により、前年度より大幅に増加しました。引き続き市民ニーズに応じたイベントを開催するなど、参加者数の増加を目指す必要があります。
- ・生物多様性の関係法令が改正され、市民に身近な特定外来生物の指定も増えてきました。生物多様性に対する理解や関心を深める機会を設けることで、生物多様性保全に向けた行動を促すことが必要です。

みどりに関する指標の用語説明

第2次豊中市みどりの基本計画では以下のとおり定義しています。

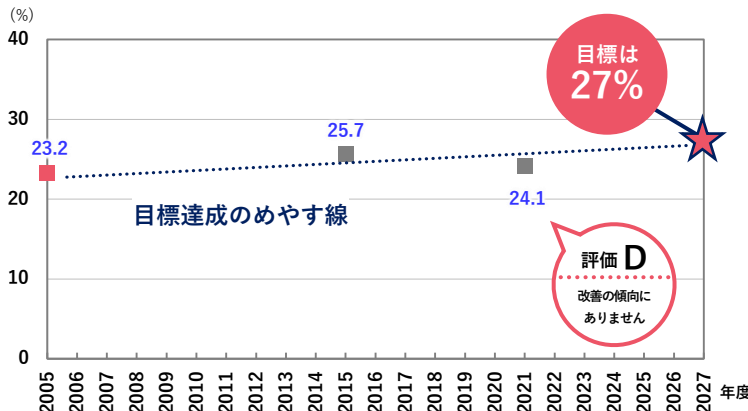
みどり：樹林・樹木、草地、農地、水面、屋上緑化、これらと一体となったオープンスペースなどの緑地のこと。

みどり率：樹林・樹木、草地、農地、水面、屋上緑化が市域に占める割合

緑被率：樹林・樹木の面積が市域に占める割合

指標の進ちょく状況

代表指標 みどり率 (%)



代表指標のみどり率は、草地・芝地・屋上緑化の増加はあるものの、開発行為や自然災害により樹林・樹木が減少傾向にあり、減少しています。

なお、みどりに関するイベント参加者数は増加傾向にあることから、市民のみどりに対する関心度の高まりが見受けられます。

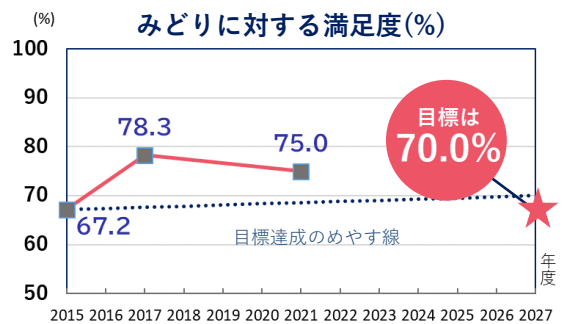


みどりに対する満足度

前回調査(2017年度)の78.3%よりやや減少しているものの、目標達成のめやすを達成しています。
(※2022年度は調査実施無し)

2021年時点
75.0%
目標値は70.0%

みどりに対する満足度 (%)



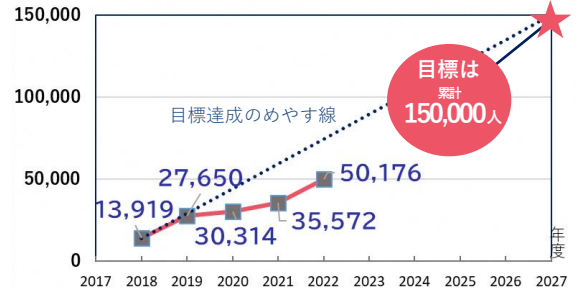
みどりに関するイベント参加者数

前年度から大幅に増加しています。3年ぶりに開催した野外イベント等の影響が大きいと考えられます。
通年では、コロナによりイベント開催が制限されていたこともあり、(2018年度からの累計50,176人)目標達成のめやすは達成していません。

年間
14,604人

目標値は累計150,000人

みどりに関するイベント参加者数(人)



市民1人あたりの公園・緑地面積

前年度より微増しています。公園面積の微増、人口の微減が要因です。
通年では、一度減少し、その後微増傾向にあるものの、減少前には(前年度から0.01 m²/人増加)戻っておらず、目標達成のめやすは達成していません。

累計
7.12 m²/人
目標値は7.17 m²/人

市民1人あたりの公園・緑地面積 (m²/人)

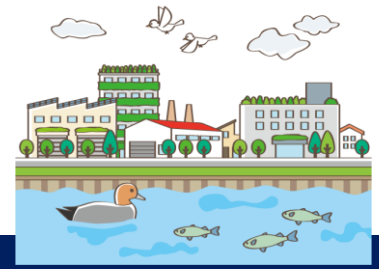


その他の指標

指標	目標	前回値 2021年度	直近値 2022年度
緑被率 (%)	15.7%	12.9%	-
市民参加による生物調査の参加者数(人)	増加	89人	76人
生物多様性の認知度 (%) (「言葉の意味を知っていた」の回答比率)	増加	26%	-
景観に関する項目が盛り込まれている 地区計画・協定等の数(件)	増加	49件	49件

目標
5

環境基準の達成状況 100%で
快適な都市環境をめざす



豊中市の 2022 年度の取組み

- ◆工場、事業場に水質汚濁や大気汚染防止のための立ち入り検査を実施
- ◆開発行為において、壁面緑化や屋上緑化など多様な緑化計画を協議

家庭でできること

公共交通・自転車等を利用しよう

自動車は道路騒音の原因になるほか、タイヤの摩耗や巻き上げ粉じんが大気汚染の原因になります。移動の際は、公共交通機関や自転車を積極的に利用しましょう。



事業所でできること

アスベストを適切に処理しましょう

解体等工事では、大気汚染防止法に基づき石綿の有無の調査（事前調査）、適切な石綿飛散防止対策を行う必要があります。令和5年10月より、事前調査は有資格者のみが実施できることになりました。



詳しくは、こちらの二次元コードから→

<https://www.pref.osaka.lg.jp/jigyoshoshido/asbestos/>

事前調査を行うことができる者

- ①特定建築物石綿含有建材調査者（特定調査者）
- ②一般建築物石綿含有建材調査者（一般調査者）
- ③一戸建て等石綿含有建材調査者（一戸建て等調査者）
- ④令和5年9月30日以前に（一社）日本アスベスト調査診断協会に登録され、事前調査を行う時点においても引き続き登録されている者。

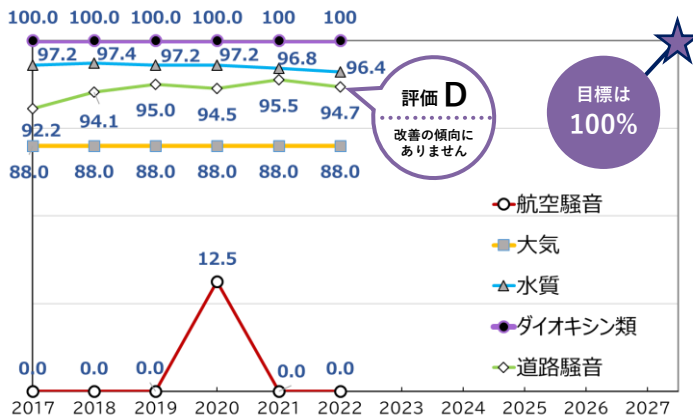


環境審議会評価

- ・生活環境について、航空機騒音を除いて、高い達成度を維持しており、市民や市の取組みの成果が現れています。高い達成率を維持するためには、今後も市民の協力が必要です。
- ・今後も、地球温暖化の影響により熱帯夜や短時間の大雨の増加などが予想されるため、引き続き気候変動の緩和策と適応策の両面から施策を推進する必要があります。

指標の進ちょく状況

代表指標 環境基準達成状況 (%)



前年度と同様に大気、水質、道路騒音では高い環境基準達成率を維持しています。
また、ダイオキシン類は環境基準達成率100%を維持しています。

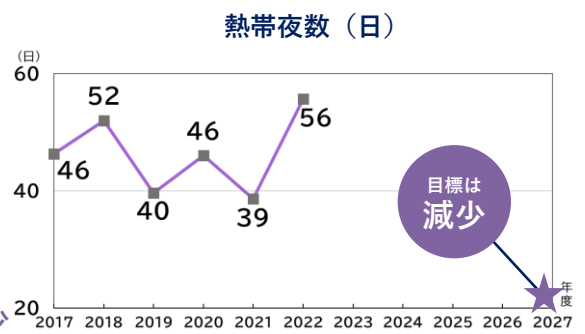


熱帯夜数 (3地点平均日数)

前年度から大きく増加しています。平年よりも気温の高い日が多く、これに伴い熱帯夜数も増加しました。

通年では、増減を繰り返しているものの、毎年度30日を超えており注意が必要です。

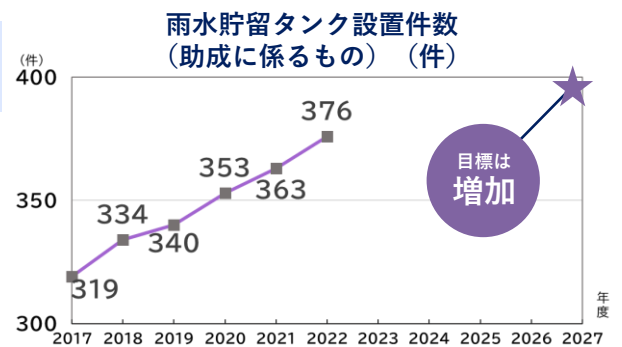
年間 **56** 日
(前年度から17日増加)
目標は減少



雨水貯留タンク設置件数 (助成に係るもの)

前年度から増加しています。通年では、10件ずつ程度ではありますが、安定して増加しています。

累計 **376** 件
(今年度13件、前年度10件)
目標は増加

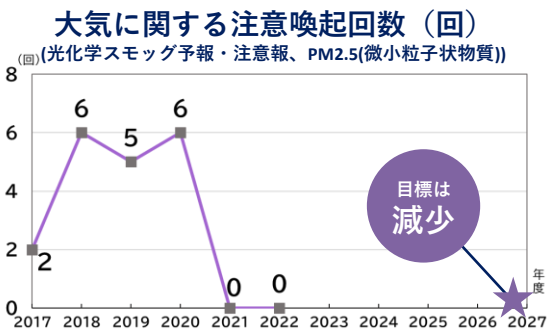


大気に関する注意喚起回数

前年度と同様に光化学スモッグ注意報等の注意喚起発令はありませんでした。

注意喚起ゼロを維持していくことが重要です。

年間 **0** 回
(前年度から変化なし)
目標は減少



その他の指標

指標	目標	前回値 2021年度	直近値 2022年度
1日1人平均給水量 (L)	減少	297L	293L
透水性舗装の累計面積 (m ²)	増加	47,167 m ²	48,325 m ²
雨水貯留タンク設置件数・容量 (助成に係るもの)	容積容量 (L)	73,192 L	75,332 L
	雨水利用累積件数 (件)	10件	11件
環境配慮のうち雨水利用に関するもの	容積容量 (L)	178,585 L	178,735 L

3. 環境審議会や市民等の意見に対する市の考え方

(1) パネル展におけるアンケート

「とよなかの環境 2022年度（速報版）」について、下記の日程でパネル展示アンケートを行い、51人の方から回答をいただきました。

その中で、環境に関して記述されたご意見については33件でした。



庄内コラボセンター



市役所本庁ロビー

パネル展及びアンケート調査の実施状況

日程	場所	アンケート回収数
9月11日（月曜）～9月15日（金曜）	庄内コラボセンター	10
9月26日（火曜）～9月28日（木曜）	本庁ロビー	32
10月5日（木曜）～10月6日（金曜）	千里文化センター	0
10月10日（火曜）～10月13日（金曜）	中央公民館	0
10月18日（水曜）～10月21日（土曜）	環境交流センター	9
その他WEBによる回答		0
計		51
内、環境に関して記述されたご意見の数		33



(2) 環境審議会や市民等の意見に対する市の考え方

目標
1よりよい環境をめざして
多様な主体のパートナーシップで取り組む

環境審議会評価（再掲）

- ・環境情報の提供の視点で意見交換をした結果、課題として、若い世代とのつながりの確保や、担い手の確保が挙げられました。今後は、伝えたい対象に合わせた様々な情報発信手法を選択していく必要があります。
- ・今回の意見交換会の議論から、さまざまな主体がそれぞれの協働や利用者に合わせて情報発信を行っており、つながりを広げていることなどが豊中市の特長といえます。また、多様な人々が協働でつながることで、単独では難しかった課題が解決したり、協働で取り組むことを通じて、子育て世代の孤立化防止や家庭へのリサイクルの拡大などの副次的な効果も生まれています。更に、活動団体同士が交流することで、新たな協働につながるほか、幅広い世代の幸福につながる可能性も示されました。こういった成果を広く共有することで、より協働の取組みが進んでいくと思われまます。

市民からの主な意見

- 小学校、幼稚園での環境学習の機会を増やして欲しい。
- 環境保護や環境美化活動などボランティアで参加できるものがあれば是非やってみたい。
- SNS 発信だと環境に関する取組み内容も目を通しやすい。

審議会評価や市民からの意見に対する市の考え方

- 広報誌をはじめ、市ホームページや SNS、YouTube など様々な手法で情報を発信しています。今後も、求められる情報の内容や発信手法を精査しながら、社会構造の変化に対応した手法で情報発信を行います。
- 市民・事業者・NPO などが主体的に環境活動を推進するための環境学習の支援を引き続き行います。また、子どもたちを対象とした体験型の環境学習の充実を図っていきます。ごみの分野では、市内の全公立小学校及び認定こども園を対象に環境学習を実施しています。また、令和 5 年度（2023 年度）から親子で楽しめる環境学習イベントを実施しており、幼少期から 3R 行動の意識を高め、環境にやさしい行動を自ら実践できるよう支援しています。
- アダプト団体や市民団体が実施する清掃活動や、市主催の美化啓発行事を実施しています。詳細については、市ホームページで紹介しています。

目標
21人あたり温室効果ガス排出量(t-CO₂)を令和9年度(2027年度)までに、平成2年度(1990年度)比38.3%削減し、脱炭素社会をめざす

環境審議会評価(再掲)

- ・温室効果ガス排出量はすべての部門で前年度から減少し、1人あたり温室効果ガス排出量の目標達成に向け順調に進んでいると判断できます。しかしながら、コロナ禍で大幅に増加した家庭部門の温室効果ガスは前年に比べ減少していますが、いまだコロナ禍以前の数値には戻っていません。家庭で電力使用量を減少させるための取組みや普及啓発が必要です。
- ・運輸部門の温室効果ガス排出量は前年度から減少していますが、自動車の排出量自体は増加しています。長期的にみると温室効果ガスが増加する懸念があるため、自動車の排出量を減らす取組みが必要です。
- ・2050年ゼロカーボンの達成に向けて、めざすべき方向性をしっかりと見すえて、建物や設備機器の省エネルギー化や再生可能エネルギーの活用などのハード面の取組みを着実に推進するとともに、日常的な取組みを徹底する意識を醸成するなど、ソフト面での取組みも推進する必要があります。

市民からの主な意見

- ゼロカーボンの達成には、市民・事業者みんなで取り組む必要があるため、一般家庭向けの補助を検討してほしい。
- 地球温暖化が年々進行しているため、ゼロカーボンにむけて具体的に市民ができることをアピールしてほしい。

審議会評価や市民からの意見に対する市の考え方

- 一般家庭向けの施策として、断熱リフォームや太陽光発電設備の導入等を補助するスマートハウス補助金や、省エネ家電を購入した人にマチカネポイントを付与する省エネ家電普及促進事業などを行っています。
- 市民向けのスマートハウス支援補助金や省エネ家電普及促進事業などハード面の補助を行うとともに、出前講座や子ども向けの環境学習などソフト面での普及啓発を行っています。今後は、引き続き市民向けの取組みを進めるとともに、事業者向けの施策を検討し、カーボンオフセット事業等、他市町村とも連携しながら2050年のゼロカーボン達成に向けて取組みを進めていきます。
- 市ホームページ等で環境に関する情報発信を行うだけでなく、子ども向けの環境学習や省エネ相談会などの環境について考える機会の創出や自然に触れる体験学習を行っています。今後も市民への普及啓発を行っていきます。

目標
3

発生抑制・再使用と質の高いリサイクル（再生利用）の推進により、ごみの焼却処理量を令和9年度（2027年度）までに平成28年度（2016年度）比8%削減し、循環型社会の構築をめざす

環境審議会評価（再掲）

- ・令和2年度（2020年度）以降、コロナ禍の影響により生活環境が一変し、自宅で過ごす機会が増えたことから、家庭系ごみの排出量が増加する一方で、事業系ごみは減少しました。令和4年度（2022年度）ごろにはWithコロナが定着し、人びとの外出機会が増えたことで家庭系ごみ排出量は減少、事業系ごみは増加しましたが、事業者のごみ減量の取組みにより、微増となっています。事業系ごみは今後も増加する可能性があり、引き続き、ごみの減量に向け、効果的な施策に取り組む必要があります。
- ・宅配やテイクアウトの利用減少に伴い、容器包装等の使用が減ったこともあり、リサイクル率は減少しています。
- ・今後も景気や人々の動向等による排出量の変化を注視しながら、目標達成をめざし、ごみ減量施策を推進する必要があります。

市民からの主な意見

- ごみの分別がわかりにくい時がある。リサイクルしやすい環境を増やして欲しい。
- パソコンのリサイクルなど日常生活でできることを取り組みたい。
- 子ども服の取組みは良い。

審議会評価や市民からの意見に対する市の考え方

- コロナの収束とともに、人びとの外出の機会が増えたことに伴い、家庭系ごみは大きく減少しました。引き続き、ワンウェイプラスチック削減に向けたマイボトル持参促進PRや、食品ロス削減に関する啓発活動に取り組むとともに、事業者と協力した水平リサイクルの検討を進め、資源循環体制の構築を図ります。また、事業系については微増で推移しましたが、今後さらに増加することも予想されます。事業者への適正排出に向けた指導を継続するとともに、令和5年（2023年）5月から、新たに生ごみ処理機を導入する事業者への補助金制度について、運用をスタートしました。
- リサイクル率は、再生資源量の増減に大きく左右されることから、今後は参考指標に位置付けることとしますが、引き続き、適正な分別・排出に向けた取組みを推進していきます。
- 引き続き、社会情勢等を鑑み、市民・事業者と協働しながら「廃棄物の減量に向けた発生抑制・再使用と質の高いリサイクルの推進」に努めていきます。
- 「ごみと再生資源の分け方・出し方ガイドブック」や広報誌などでの周知を図るとともに、「さんあ〜る」アプリや、市公式LINEのチャットポットなど、新たな媒体での周知活動も充実させています。
- パソコンについては、市内に設置しているボックスでの回収のほか、令和4年（2022年）2月からは民間事業者と協定を締結し、宅配による回収も行っています。
- 子ども服リユースは、不要になった子ども服を市が回収し、イベント等を通じて必要とする家庭に無償で提供する事業です。また、各団体にお渡しし、各団体から市民へ無償で提供することもあります。子ども服をリユースし、循環することで、ごみの減量とリサイクル推進に向けた意識向上を図っています。

目標
4

みどり率 27%で心豊かな豊中らしいまちをめざす

環境審議会評価（再掲）

- ・2022年度は、みどり率、緑被率、みどりに対する満足度の調査は行っていませんが、前回の調査結果を踏まえ、今後もみどりの育成と保全を行うとともに、市民に親しまれるとよなかのみどりの啓発を行っていく必要があります。
- ・みどりに関するイベント参加者数は、引き続きコロナ禍の影響によるイベント等の縮小や来場制限で減少傾向にあるものの、3年ぶりの野外イベント開催等により、前年度より大幅に増加しました。引き続き市民ニーズに応じたイベントを開催するなど、参加者数の増加を目指す必要があります。
- ・生物多様性の関係法令が改正され、市民に身近な特定外来生物の指定も増えてきました。生物多様性に対する理解や関心を深める機会を設けることで、生物多様性保全に向けた行動を促すことが必要です。

市民からの主な意見

- 緑が少ないので、目標を27%より多くしてほしい。
- 緑の取組みがボランティア団体でされており、とても素敵だと思った。環境はとても大切であり、一人ひとりが身近なことから取り組んでいくことが必要だと思っている。市が小さなことから始めている姿勢はいいなと感じた。
- アップツリーの取組みは素敵だが、値段が高いため複数名での応募もできるようにしてほしい。

審議会評価や市民からの意見に対する市の考え方

- 公園・緑地など、まとまりのあるみどりの保全や育成に引き続き取り組むとともに、まちなかの身近なみどりの創出に取り組めます。また、市民との協働による、とよなかのみどりの情報発信や緑化を支援する制度などの普及啓発に努めます。
- 今後も、幅広い世代が参加しやすいイベントとなるよう内容を工夫しながら、ニーズを反映した魅力ある様々な内容のイベントを開催し、市民のみどりへの興味や関心を高めていきます。
- 環境交流センターやふれあい緑地ビジターセンター事業などにより、引き続き市民が生物多様性保全に関わる講座やイベント等を実施してまいります。
- 市では、花とみどりの相談所を拠点に、講習会やみどりの相談のほか、緑化リーダー養成講座を実施し、技術や知識の普及に努めています。こうした支援を通して、今後も市民のみなさまとともに緑化の推進に取り組んでまいります。
- とよなか公園魅力アップツリー事業は、皆様の寄附で公園に樹木を植えることで、より愛着の持てる親しみやすい公園づくりをめざす事業で、令和4年度（2022年度）にスタートしました。今年度も一定の寄附をいただいておりますが、今後もより多くの方に寄附をいただける仕組み等を検討してまいります。

目標
5

環境基準の達成状況 100%で快適な都市環境をめざす

環境審議会評価（再掲）

- ・生活環境について、航空機騒音を除いて、高い達成度を維持しており、市民や市の取組みの成果が現れています。高い達成率を維持するためには、今後も市民の協力が必要です。
- ・今後も、地球温暖化の影響により熱帯夜や短時間の大雨の増加などが予想されるため、引き続き気候変動の緩和策と適応策の両面から施策を推進する必要があります。

市民からの主な意見

- 熱帯夜数を減らす取組みが必要だと思う。市民が公害を知るためのPRをしてほしい。
- 空港隣接都市として、大気汚染物質の発生にどのような影響があると考えているのか教えてほしい。
- 市内高速道路の騒音が気になります。

審議会評価や市民からの意見に対する市の考え方

- 引き続き達成度を維持できるように取り組んでいきます。市内各所でモニタリングされたデータは分かりやすく評価・公表していきます。
- 市内3カ所で、気温を常時計測しており、ホームページ「豊中市の大気環境情報」にてリアルタイムに公表しています。ぜひご活用ください。熱帯夜を減らすためにも地球温暖化対策が必要です。CO₂の排出量を減らす取組みを一人ひとりが行うことが大切です。
- 大気汚染は市内3カ所で常時監視しており、光化学オキシダントを除き環境基準を達成しています。光化学オキシダントは様々な要因により発生する汚染物質であり、全国的に達成率が低いことから、空港が隣接していることが原因とは考えていません。
- 毎年度、市内を通る幹線道路、高速道路については道路騒音を測定しています。道路近傍においては、一部で環境基準を超過することがあります。結果は大阪府や国へ報告を行っており、取組みが進められています。

4. 令和5年度（2023年度）以降の主な事業

● 令和5年度（2023年度）の実施事業

《目標1》

事業名称	内 容	主な担当部局
環境学習の推進	環境に配慮したライフスタイルを実践できるよう、家庭、学校、地域団体などにおける環境学習を推進しました。また、脱炭素社会の推進に向けて導入した燃料電池自動車を活用し、事業者と協働した普及啓発を実施しました。	ゼロカーボンシティ推進課
とよなか市民環境展	市民・事業者・行政の環境問題解決に向けての取組みの発表と交流の場を設け、今年度のテーマ「めざそうゼロカーボンシティ！あしたのために、行動しよう」のもと、環境問題の普及啓発を実施しました。	ゼロカーボンシティ推進課
環境交流センター運営管理	地球環境の保全、環境への配慮及び資源・エネルギーの有効利用と廃棄物の減量のための活動・交流の場を提供しました。今年度は、施設外で事業実施を行い、取組みを広げていきました。また、指定管理者の評価を行いました。	ゼロカーボンシティ推進課
環境基本計画の推進	「第3次豊中市環境基本計画（改定）」で定めたPDCAサイクルに基づいて施策・事業の進行管理を図り、豊中市環境報告書「とよなかの環境～2022年度速報版～」を公表するとともに市民等の意見を募集しました。市民等の意見に対する施策への予算反映を含めた市の考え方を示す、豊中市環境報告書「とよなかの環境～2022年度評価と今後に向けて～」を年度末に公表しました。	ゼロカーボンシティ推進課
豊中アジェンダ21の普及促進	地球環境を守る市民・事業者・行政の行動計画「第3次豊中アジェンダ21」に基づく市民、事業者などの環境配慮活動の普及促進を図りました。また、「第3次豊中アジェンダ21（改定版）」を策定しました。 さらに、同計画の環境プラットフォームである「NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21」と協働し、計画の進行管理や啓発、実践活動を支援しました。	ゼロカーボンシティ推進課

《目標2》

事業名称	内 容	主な 担当部局
地球温暖化対策 実行計画の推進	「第4次豊中市地球温暖化対策実行計画(改定)」に基づき、市の事業実施に伴い発生する温室効果ガスの発生抑制に取り組みました。また、「電力の地産地消可能性調査」の結果に基づき、市域で発電した電力を市域で消費する取組みを検討しました。さらに、カーボンオフセット事業による「CO ₂ 吸収量認証制度」を活用した取組みを進めました。	ゼロカーボンシテイ推進課
地球温暖化防止 地域計画の推進	「第2次豊中市地球温暖化防止地域計画(改定)」に基づき、市民・事業者に向けた地球温暖化対策の普及啓発や、省エネルギー行動を促すキャンペーン等を通して市域の温室効果ガスの削減を推進しました。また、森林環境保全に関する自治体間連携協定に基づき、自然体験型環境学習を実施することにより、森林保全による温暖化対策について啓発しました。	ゼロカーボンシテイ推進課
スマートハウス等 支援事業	住宅の省エネルギー性能の向上を図り、家庭部門における温室効果ガスの削減を推進するため、市内の住宅におけるスマートハウス化に関する補助金を交付するとともに周知啓発を行いました。	ゼロカーボンシテイ推進課
電気自動車等購入支 援補助金	電気自動車(EV)や燃料電池自動車(FCV)、プラグインハイブリッド車(PHV)を購入する事業者に対して、国の補助制度とも連動しつつ、購入補助を実施しました。	ゼロカーボンシテイ推進課
交通対策事業	「豊中市公共交通改善計画」に基づく事業として、豊中東西線への運行補助、乗合タクシーの運行委託を実施しました。また、各交通事業者と会議、連絡調整、交通課題への対応等を行いました。	交通政策課

《目標3》

事業名称	内 容	主な 担当部局
廃棄物関連計画の 推進	「第4次豊中市一般廃棄物処理基本計画」及び「第4次豊中市ごみ減量計画」に掲げる事業の実施並びに成果指標・モニター指標を使った計画の進行管理を行うとともに、市のホームページ等を通じ進行状況を公表しました。	減量計画課
ごみ減量普及啓発 事業	プラスチック類の削減に向けた取組みや食品ロス削減に係る周知、地域のイベント等におけるフードドライブの支援、SNSを活用した情報発信など、ごみの減量とリサイクルを推進しました。 ごみの減量及びリサイクルに取り組む店舗を「豊中エコショップ」として認定し、事業者の環境保全に対する意識の高揚を図るとともに、地域デジタルポイントなどを活用し、制度の拡充に取り組みました。また、事業所から排出される厨芥類の削減に向け、生ごみ処理機設置補助制度を実施しました。	減量計画課
事業ごみ減量対策 事業	事業活動に伴い多量の一般廃棄物を排出する事業所に対してごみ減量計画書の提出を求め、それに基づき取組み状況を立入調査で確認・助言するとともに、他の事業所での先進的な取組み事例等の紹介を情報誌の発行を通して提供するなど、事業者の自発的な取組みを支援しました。	環境指導課
再生資源集団回収 報奨金交付事業	再生資源を回収する登録市民団体や登録行商者に対して再生資源の回収量に応じた報奨金を交付しました。 リサイクルの推進に向けて、多くの市民に集団回収活動に参加していただけるよう、未実施である地域団体への積極的なPR活動を展開し、新規登録団体の獲得を図るとともに、既存の登録団体に対しても回収量増に向けた働きかけを行い、地域コミュニティの維持、活性化に繋げました。	家庭ごみ 事業課
分別周知事業	市民から、ごみの分別を通じた3R推進の取組みへの理解と協力を得るため、広報活動の充実化として、ごみカレンダーの作成・全戸配布等の取組みにより、市民サービスの質的向上を図りました。	家庭ごみ 事業課
小型家電リサイクル 事業	公共施設等における拠点回収に加え、「充電式電池内蔵の小型家電・電池類」の定期回収を開始し、火災事故の未然防止並びに、ごみの減量及びリサイクルの推進を図りました。	家庭ごみ 事業課
リユース事業	家庭で不要となった子ども服や家具類などをリユースすることにより、資源の有効活用及びごみの発生抑制を図り、ごみの減量を促進しました。	家庭ごみ 事業課

《目標4》

事業名称	内 容	主な 担当部局
みどりの基本計画 進行管理事業	「第2次豊中市みどりの基本計画」に掲げる事業の実施並びに計画目標及びモニター指標を使った計画の進行管理を行うとともに、市のホームページ等を通じ進行状況を公表しました。	公園みどり 推進課
緑化推進事業	市民や事業者等が取り組む緑化活動に対する支援として、緑化樹の配付や道路沿いに設置する生垣や植樹への助成、ご近所3軒以上のグループで取り組む花壇活動など民有地緑化の推進のほか、株式会社ジモティーと連携した樹木のリユース事業について、ホームページ等で案内しました。	公園みどり 推進課
みどりの交流会 運営事業	市民との協働により、みどりのカーテンプロジェクト、花苗プロジェクト、地域みどり学習プロジェクトにおけるプロジェクト活動を推進するとともに、運営委員会等で企画するイベントにより、みどりの適正な保全や緑化活動を推進しました。また、花とみどりの名所マップづくりなどを推進しました。	公園みどり 推進課
地域美化活動事業	公共の場所を個人、団体が自主的に清掃する地域美化活動に対して、市がごみ袋の提供や清掃用具等の貸出し、ごみの回収等の支援を行いました。	美化推進課

《目標5》

事業名称	内 容	主な 担当部局
環境保全条例推進	開発事業等による環境配慮の協議や環境影響評価の実施に伴う届出を受け付けました。	環境指導課
空港周辺対策事業	国や大阪国際空港の運営者等に対して、大阪国際空港周辺都市対策協議会（10市協）等を通じて行う空港及び周辺地域の環境・安全対策等の要望や協議により、安全運航の確保や航空機騒音の発生源対策、周辺対策や利便性の向上等の推進を図りました。 遅延便の低減に向けた取組みの継続を関係機関に要望するとともに、遅延便取扱いのルール化と共通理解の形成に向けて、関係機関や地元住民との協議を行いました。 航空機公害対策推進市民運動団体に対する活動費補助や空港周辺環境整備事業助成の活用により、周辺対策等の推進を図りました。	空港課
水質汚濁関係業務	市内の水質汚濁に係る公害の状況を把握し、公害防止に必要な措置を講じました。	環境指導課
騒音・振動関係業務	市内の騒音・振動に係る公害の状況を把握し、公害防止に必要な措置を講じました。	環境指導課

事業名称	内 容	主な 担当部局
大気汚染関係業務	市内の大気汚染物質の常時監視などにより大気汚染に係る公害の状況を把握し、公害防止に必要な措置を講じるとともに、アスベスト対策に取り組みました。	環境指導課

●令和6年度（2024年度）の事業

環境審議会と市民のみなさんからの意見を踏まえ、令和6年度（2024年度）はこれまで実施している事業も含めて以下に示す事業に取り組みます。

また16ページから20ページの「市の考え方」で示している内容に関連した内容について下線を引いています。

＜目標1＞

事業名称	内 容	主な担当部局	予算額 (千円)
環境学習の推進	環境に配慮したライフスタイルを実践できるよう、 <u>家庭や学校、地域団体などにおける環境学習を推進します。</u>	ゼロカーボンシティ推進課	1,971
とよなか市民環境展	市民・事業者・行政の環境問題解決に向けての取り組みの発表と交流の場を設け、行動計画「第3次豊中アジェンダ21」の普及啓発を図ります。	ゼロカーボンシティ推進課	2,373
環境交流センター運営管理	地球環境の保全、環境への配慮及び資源・エネルギーの有効利用と廃棄物の減量のための活動・交流の場を提供します。	ゼロカーボンシティ推進課	21,633
環境基本計画の推進	「第3次豊中市環境基本計画」で定めたPDCAサイクルに基づいて施策・事業の進行管理を図り、環境報告書を公表します。	ゼロカーボンシティ推進課	7,798
豊中アジェンダ21の普及促進	地球環境を守る市民・事業者・行政の行動計画「第3次豊中アジェンダ21」に基づく市民、事業者などの環境配慮活動の普及促進を図ります。	ゼロカーボンシティ推進課	4,365

＜目標2＞

事業名称	内 容	主な担当部局	予算額 (千円)
地球温暖化対策実行計画の推進	クリーンランド電力の地産地消及び市有施設のLED化に取り組みます。また引き続き、「第4次豊中市地球温暖化対策実行計画」に基づき、省エネ機器への更新、再生可能エネルギーの導入、電力の調達に関する環境配慮方針の運用を行うなど、市の事業実施に伴い発生する温室効果ガスの削減に取り組みます。	ゼロカーボンシティ推進課	1,799

事業名称	内 容	主な担当部局	予算額(千円)
地球温暖化防止地域計画の推進	市有施設に電気自動車用充電設備を設置するとともに、事業者の脱炭素化に向けた啓発及びニーズ把握を行います。また引き続き、「 <u>第2次豊中市地球温暖化防止地域計画</u> 」に基づき、 <u>市民・事業者に向けた省エネ活動の普及啓発や省エネ機器更新の支援、再生可能エネルギーの導入、住宅の省エネルギー化促進などを進め、市域の温室効果ガスの排出量を削減します。</u>	ゼロカーボンシティ推進課	15,414
スマートハウス等支援補助金	<u>家庭からの温室効果ガス排出量削減のため、ネット・ゼロ・エネルギーハウス（ZEH）、断熱リフォーム、太陽光発電システム、燃料電池システム（エネファーム）、蓄電池の設置などを支援し、普及啓発を実施します。</u>	ゼロカーボンシティ推進課	24,066
電気自動車等購入支援補助金	<u>電気自動車（EV）や燃料電池自動車（FCV）、プラグイン・ハイブリッド車（PHV）を購入する事業者及び個人（市民）に対して、購入支援補助を実施します。</u>	ゼロカーボンシティ推進課	10,015
交通対策事業	豊中市公共交通改善計画に基づく事業として、豊中東西線への運行補助、乗合タクシーの運行委託を実施します。また、各交通事業者と会議、連絡調整等を行います。 令和6年度は計画の中間見直しを行います。	交通政策課	87,136

《目標3》

事業名称	内 容	主な担当部局	予算額(千円)
廃棄物関連計画の推進	「 <u>第4次豊中市一般廃棄物処理基本計画</u> 」及び「 <u>第4次豊中市ごみ減量計画</u> 」に掲げる事業の実施並びに成果指標・モニター指標を使った計画の進行管理を行います。	減量計画課	9,762
ごみ減量普及啓発事業	<u>新たにペットボトルの水平リサイクルに取り組みます。また、豊中エコショップ制度については、フェスティバルの実施やデジタル技術を活用したPR活動に取り組むとともに、フードドライブ事業は、引き続き事業者と連携した効率的な食料品の回収を行います。さらに、<u>ごみ処理機を導入する事業者に補助金を交付するなど、ごみの減量・リサイクルを推進します。</u></u>	減量計画課	17,418

事業名称	内 容	主な担当部局	予算額(千円)
事業ごみ減量対策事業	<u>事業活動に伴い多量の一般廃棄物を排出する事業所に対してごみ減量計画書の提出を求め、それに基づき取組み状況を立入調査で確認・助言するとともに、他の事業所での先進的な取組み事例等の紹介を情報誌の発行を通して提供するなど、事業者の自発的な取組みを支援します。</u>	環境指導課	574
再生資源集団回収報奨金交付事業	再生資源を回収する登録市民団体や登録行商者に対して再生資源の回収量に応じた報奨金を交付します。 リサイクルの推進に向けて、多くの市民に集団回収活動に参加していただけるよう、未実施である地域団体への積極的なPR活動を展開し、新規登録団体の獲得を図るとともに、既存の登録団体に対しても回収量増に向けた働きかけを行い、地域コミュニティの維持、活性化に繋げていきます。	家庭ごみ事業課	29,317
分別周知事業	<u>市民から、ごみの分別を通じた3R推進の取組みへの理解と協力を得るため、広報活動の充実化として、ごみカレンダーの作成・全戸配布等の取組みにより、市民サービスの質的向上を図ります。</u>	家庭ごみ事業課	13,604
小型家電リサイクル事業	<u>公共施設等に専用の回収ボックスを常設し拠点回収を行うことにより、ごみの減量及びリサイクルの推進を図ります。</u>	家庭ごみ事業課	149
リユース事業	<u>家庭で不要となった子ども服や家具類などをリユースすることにより、資源の有効活用及びごみの発生抑制を図り、ごみの減量を促進します。</u>	家庭ごみ事業課	81

《目標4》

事業名称	内 容	主な担当部局	予算額(千円)
みどりの基本計画進行管理事業	環境審議会等で審議するなど計画目標及びモニター指標を用いて、施策に基づく事業の状況把握と評価を行うとともに、豊中市環境報告書「とよなかの環境」や市のホームページなどで進行管理に関する内容を公表し、施策に基づく事業の推進に反映します。 また、令和5年度の間接総括結果を受けて、グリーンインフラによるまちづくりに向けた調査検討を実施します。	公園みどり推進課	7,735
緑化推進事業	市民や事業者等が取り組む緑化活動に対する支援として、 <u>緑化樹の配付や道路沿いに設置する生垣への助成など民有地緑化の推進のほか、市民緑地設置管理計画の認定や緑地協定の認可等を行います。</u>	公園みどり推進課	14,178

事業名称	内 容	主な担当部局	予算額(千円)
みどりの交流会運営事業	<u>みどりのカーテンプロジェクト、花苗プロジェクト、地域みどり学習プロジェクトにおけるプロジェクト活動を推進するとともに、運営委員会等で企画するイベントにより、みどりの適正な保全や緑化活動を推進します。また、花とみどりの名所マップづくりなどを推進します。</u>	公園みどり推進課	1,259
地域美化活動事業	<u>公共の場所を個人、団体が自主的に清掃する地域美化活動に対して、市がごみ袋の提供や清掃用具等の貸出し、ごみの回収等の支援を行います。</u>	美化推進課	5,681

《目標5》

事業名称	内 容	主な担当部局	予算額(千円)
環境保全条例推進	開発事業等による環境配慮の協議や環境影響評価の実施に伴う届出を受け付けます。	環境指導課	3,331
空港周辺対策事業	国や大阪国際空港の運営者等に対して、大阪国際空港周辺都市対策協議会（10市協）等を通じて行う空港及び周辺地域の環境・安全対策等の要望や協議により、安全運航の確保や航空機騒音の発生源対策、周辺対策等の推進を図ります。 航空機公害対策推進市民運動団体に対する活動費補助や空港周辺環境整備事業助成の活用により、周辺対策等の推進を図ります。	空港課	2,643
水質汚濁関係業務	<u>市内の水質汚濁に係る公害の状況を把握し、公害防止に必要な措置を講じます。</u>	環境指導課	7,446
騒音・振動関係業務	<u>市内の騒音・振動に係る公害の状況を把握し、公害防止に必要な措置を講じます。</u>	環境指導課	4,792
大気汚染関係業務	<u>市内の大気汚染に係る公害の状況を把握し、公害防止に必要な措置を講じるとともに、アスベスト対策に取り組みます。</u>	環境指導課	27,492

第3章 環境に関する情報発信

1. 解説コーナー

ここでは、環境の取組みについて理解を深めるための情報を紹介します。

目標
4

せいぶつたようせい 生物多様性ってなんだろう？

地球上に生きものが誕生してから、生きものたちはさまざまな環境の中で生き残れるよう進化してきました。現在、地球には3,000万種ともいわれる多様な生きものがいます。

生きものには、ゾウのように大きなものから細菌のように小さなものまで、さまざまな種類があり、そして同じ種類の生きものでもそれぞれ個性や違いがあります。

これらの生きものは長い年月をかけてお互いにつながりあい、支えあって生きているのです。

せいぶつたようせい 生物多様性とは

「多様性」とは、いろいろな種類や性質をもつものが、ともに存在することをいいます。

では「生物多様性」とはどのような意味でしょうか。生物多様性には3つのレベルの「多様性」があります。

3つのレベルの「多様性」

せいぶつたようせい 生態系の多様性

森林、川、湿地や海など、生きものの住みかとなるいろいろな種類の環境があることです。

どのような場所でも、そこにいろいろな生きもの
のつながりがあり、バランスを保っています。



たぐさ 種の多様性

動物、植物、細菌などの微生物まで、いろいろな種類の生きものがいることです。

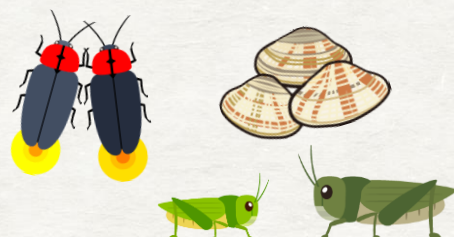
開発や乱獲、環境の変化などによって、いろいろな種類の生きものが絶滅してしまうと、種の多様性が失われることがあります。



いでんし 遺伝子の多様性

同じ種類でも、例えばテントウムシやアサリの模様のように多様な個性や違いがあることです。

少しずつ性質が違うことで、病気や環境の変化があっても全滅を防ぐことができます。



目標
4せいぶつたようせい
生物多様性国家戦略って何だろう？

生物多様性国家戦略とは、生物多様性を守り、持続的に利用していくために、何をするか、どういったことを目指すのかといった国の方向性を示した計画です。

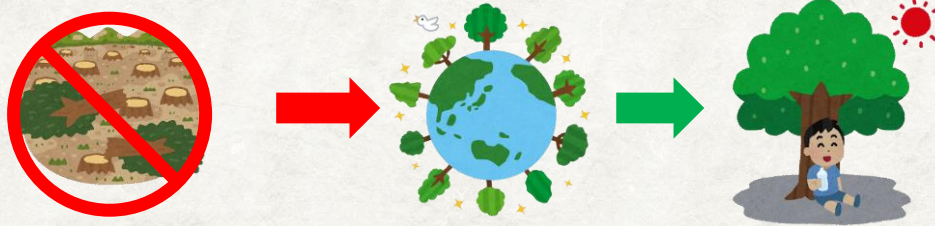
令和5年3月31日に、最新の第六次生物多様性国家戦略が閣議決定されました。

国際的な目標である『昆明・モンテリオール生物多様性枠組』に合わせ、2050年ビジョン『自然と共生する世界』に向けて2030年ネイチャーポジティブを目指すことや、海と陸の30%以上を効率的に保全するといった目標が書かれています。

ネイチャーポジティブ

生物多様性国家戦略の重要なキーワードが『ネイチャーポジティブ（自然再興）』です。

『自然と共生する世界』をめざし、今も進む自然の崩壊をくい止め、豊かな自然を取り戻すことが、ネイチャーポジティブの考え方です。



人間も生態系の一部であり、自然からたくさんの影響を受けています。「自然と共生する世界」の実現には、生物多様性を回復させるだけでなく、同時に人々が暮らしやすい社会にする必要があります。

そのために、生物多様性の価値を認識し、生活の中で上手に活用し、共存していくための様々な目標が生物多様性国家戦略で設定されています。

2050年ビジョン『自然と共生する世界』

新たな世界目標『昆明・モンテリオール生物多様性枠組』

2050年に自然と共生する世界を実現するために、生物多様性への脅威を減らし、人々のニーズを満たすためのツールと解決策を確保するなど、2030年までにネイチャーポジティブのための緊急行動をとることが国際目標として定められました。

2. 動画コンテンツ

環境に関する内容を市民、事業者のみなさまに知っていただくため、市のホームページ、SNSなどのほか動画共有サイト YouTube「とよなか環境TV」にて環境等に関する動画を公表しています。

令和5年度（2023年度）に新たに追加した動画を一部紹介しています。

とよなか環境 TV

ごみの分別・出し方、食品ロス、公園の遊具の使い方、地球温暖化防止に向けた取組みといった環境等に関する動画を紹介しています。



豊中でできる『エコなこと』

誰でもできる、お金を掛けず節約にもなるエコアクションについて紹介します。



「シェアサイクル」で豊中市内の給水スポットを回ってみた

シェアサイクルで市内の給水スポットを回り、場所やシェアサイクルの使い方をご紹介します。



屋外分煙所のご利用についてのお願い

屋外分煙所の正しい使用方法をご紹介します。



新しい分別回収が始まるよ！『充電式電池内蔵の小型家電製品および電池類』

2023年10月から始まった充電式電池内蔵小型家電製品および電池類の分別方法について紹介します。



【NATS】無料で使える給水機！？の巻

NATS（西宮市、尼崎市、豊中市、吹田市）が設置を促進している無料給水機について紹介しています。



とよなかの環境 2022年度 環境報告書

豊中市環境報告書「とよなかの環境」の内容について、各分野の現状や市の取組みなどを紹介しています。

3. 環境イベント

環境に関するイベントについては、広報とよなかや市ホームページ、SNS等で公表しています。

市ホームページ まちづくり・環境イベント情報
<https://www.city.toyonaka.osaka.jp/event/machi/index.html>



○令和6年度（2024年度）に実施予定の主な環境イベント

とよなか市民環境展



複数開催

イベント名	開催時期	内容	担当課等
みどりのつどい	年3回	みどりに関する活動を行う市民や団体などが自由に参加し、情報交換や仲間づくりなどを行う交流の場「豊中みどりの交流会」において開催。みどりに関する活動の参考となる講習会や事例発表などを実施。	公園みどり推進課
ジョイントひろば	年2回	ひろばを活用して、さらなる3R促進に向けた豊中・伊丹両市民の交流の場とするイベントを開催予定。内容は特設ステージやリユースマーケットなど。	豊中市伊丹市クリーンランド
幼少期から始める美化清掃活動	9月～ 翌年3月	まちを美しくする運動推進本部が市内こども園などの園児を対象に自らが清掃に関わることのできる力を幼少期から身につけるため、美化清掃活動を実施。	美化推進課
美化啓発行事	6月・ 9月	天竺川清掃の実施。	美化推進課

春

イベント名	開催時期	内容	担当課等
宮山つつじ園公開	4月	約1,000本のコバノミツバツツジが植えられている、宮山町の春日神社裏の宮山つつじ園を開放。俳句の投句など。	公園みどり推進課
スプリングフェスタ	4月	花とみどりの相談所で緑化リーダー養成講座の受講生が企画し開催。花苗の寄せ植え体験や花苗・苗木のプレゼントなど。	公園みどり推進課
ふれあい緑地フェスティバル	5月	豊島北校区航空機公害対策連合会などと、服部西町のふれあい緑地で開催。金魚すくいや消防車の展示のほか、スタンプラリーなど。	公園みどり推進課
ヒメボタル学習会・観察会	5月	春日町ヒメボタル特別緑地保全地区に生息するヒメボタルの生態や保全活動などについて、クイズなどを交えて学ぶとともに、現地での観察会を行う。	公園みどり推進課
豊中みどりの交流会展	6月	豊中みどりの交流会で行っているプロジェクト活動、みどりのつどい、みどりのフォーラム等のパネル展示、みどりのカーテンや草花の寄せ植えの実物展示などを実施。	公園みどり推進課



秋

イベント名	開催時期	内容	担当課等
豊中緑化リーダー会展	10月	豊中緑化リーダー会の主催により、花とみどりの相談所で開催。日ごろの活動のパネルや作品の展示や、花壇植付け体験などを実施。	公園みどり推進課
とよっぴーフェスタ	10月	堆肥化施設「緑と食品のリサイクルプラザ」にて、食や農、資源循環について楽しく学べるイベントとして開催。	とよっぴーフェスタ実行委員会
みどりのフォーラム	11月	みどりに関する活動を行う市民や団体などが自由に参加し、情報交換や仲間づくりなどを行う交流の場「豊中みどりの交流会」において開催。みどりに関する活動の参考となる基調講演や事例発表のほか、体験コーナーやパネル展示などを実施。	公園みどり推進課
美化推進重点地区強化月間	11月	美化推進重点地区に指定した阪急豊中駅・庄内駅、大阪モノレール・北大阪急行千里中央駅周辺で巡回指導の強化、清掃活動を実施。	美化推進課
農業祭	11月	豊中市産農産物・コメ・花・授産施設製品などの即売会、寄せ植え体験、プレゼントコーナーなど。	産業振興課 農政係
とよなか市民環境展	11月	市民団体・事業者・行政・学校などの環境の取組みを展示・発表する場であり、市民や小学生が環境について学習する場。環境をテーマとした市内の一大イベント。	NPO法人 アジェンダ21
豊中エコショップフェスティバル	11月	エコショップのPRをはじめ、フードドライブや地球環境の大切さを伝えるイベント。また、ダンス発表や職業体験など子どもの創造性を育みます。	減量計画課
とよなかエコ市民賞表彰式	11月	環境をよくする活動に自主的、積極的に取り組んでいる団体を表彰し、行動の輪を広げるエコ市民賞の表彰状授与式と各団体からの活動発表。	とよなか市民環境会議
美化ポスター展	12月	まちを美しくする運動推進本部が市内小中学生から募集したポスターの入選作品を市ホームページ等で紹介。	美化推進課

冬

イベント名	開催時期	内容	担当課等
幼児図画展	2月	まちを美しくする運動推進本部が市内こども園などから募集した図画の入選作品を市ホームページ等で紹介。	美化推進課
クリーンランド環境フォーラム	3月	講演や施設見学など。環境負荷低減のために市民や行政がとるべき行動などについて考える機会。	豊中市伊丹市クリーンランド



第4章 用語解説

本文の用語ほか環境に関する用語を掲載しています。

あ 行

【アスベスト】

天然に産出する繊維状けい酸塩鉱物の総称。石綿（せきめん、いしわた）とも呼ばれる。耐久性や耐熱性があり、建築材料等に使用されてきたが、繊維を吸入することで肺がんを起こす可能性があることから、現在は原則として製造や使用が禁止されている。

【アダプト活動】

「アダプト」（英語）とは、「養子にする」という意味。道路や公園などの公共の場所をわが子のように慈しみ、愛情をもって面倒を見る＝清掃・美化する活動を行う仕組みの活動。

【違法簡易広告物追放推進団体制度（とよなか美はり番）】

豊中市が行う違法屋外広告物の除却を地域団体等に委任し、地域に密着した市民・事業者の団体と行政のパートナーシップに基づき、美観向上と危害防止に障害となる違法な広告物を許さない地域環境づくりを推進している。平成15年度に創設。

【雨水貯留・雨水利用】

雨水を貯留し、トイレの洗浄水や植木の散水、洗車、防火用水等に有効利用する。上水道の節水や洪水などの災害防止などの効果が得られる。

【エコドライブ】

地球温暖化防止など、環境負荷の低減に配慮した自動車運転の方法。急発進、急加速をやめる、アイドリング禁止、タイヤの空気圧の適正化などを心がけるもの。

【大阪府公共用水域測定計画】

水質汚濁防止法の規定により、大阪府域の公共用水域の水質を常時監視するために行う水質等の測定について、測定する項目、測定の地点および方法その他必要な事項を定めたもの。

【屋上緑化・壁面緑化】

屋上緑化とは、建築物の屋上など、構造物上に人工の地盤をつくり、そこに植物を植えて緑化すること。壁面緑化は、建築物等の壁面をつる性植物などで覆う緑化のこと。緑化によって、ヒートアイランド現象の緩和、省エネルギー、大気の浄化等の効果がある。

【温室効果ガス】

Greenhouse Gas, GHG とも表す。太陽からの熱を地球に封じ込め、地表を暖める働きがあるガスのこと。

「地球温暖化対策の推進に関する法律」では、二酸化炭素（CO₂）、メタン（CH₄）、一酸化二窒素（N₂O）のほか、ハイドロフルオロカーボン類（HFC）、パーフルオロカーボン類（PFC）、六ふっ化硫黄（SF₆）、三ふっ化窒素（NF₃）を加えた7ガスが削減対象の温室効果ガスと定められている。

か 行

【カーボンオフセット】

日常生活や経済活動に伴う温室効果ガスの排出について、どうしても削減できない排出を他で埋め合わせること。埋め合わせの手法として、温室効果ガスの削減活動に投資することや、他の場所で削減された二酸化炭素削減量をクレジットという形で購入するなどの手段がある。

【環境影響評価（環境アセスメント）】

「豊中市環境の保全等の推進に関する条例」に基づき、一定規模以上の開発行為等を行う場合、それが周辺の環境にどのような影響を与えるかについて、事業者が事前に調査、予測などをするとともに、環境を守るための対策を検討し、環境保全の観点からよりよい事業計画をつくりあげていこうという制度。

【環境基準】

環境基本法に基づいて、政府が定める環境保全行政上の目標。人の健康の保護および生活環境の保全のうえで維持されることが望ましい基準として定められたもの。大気、水質、土壌、騒音について定めているが、振動については定められていない。ダイオキシン類に関しては、ダイオキシン類対策特別措置法に基づいて、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染について定められている。

【緩和策】

温室効果ガスの排出量を削減する（または植林等によって吸収量を増加させる）対策のこと。

【環境配慮指針】

環境基本条例の理念を実現するために、豊中市環境の保全等の推進に関する条例に基づいて、開発や建設・事業活動等に際して配慮する内容を示したもの。

【協働】

まちづくり等の事業において、市民・NPO法人・事業者・行政等の各主体が、目的を共有し、対等な立場で相互に理解を深めながら、それぞれの特性を活かして協力・連携して取り組むこと。

【グリーン購入法】

国等の公的機関が率先して環境物品等（環境負荷低減に資する製品・サービス）の調達を推進するとともに、環境物品等に関する適切な情報提供を促進することにより、需要の転換を図り、持続的発展が可能な社会の構築を推進することを目指す法律のこと。

【光化学オキシダント】

工場や自動車から排出される一次汚染物質が、太陽の紫外線照射を受けて光化学反応を起こすことによって生成される酸化性物質のうち、二酸化窒素を除いたもの。光化学オキシダントは、光化学スモッグの原因となり、高濃度では粘膜への影響などのほか、農作物などへの影響も報告されている。

さ 行

【再生可能エネルギー】

「エネルギー供給事業者による非化石エネルギー源の利用及び化石エネルギー原料の有効な利用の促進に関する法律（エネルギー供給構造高度化法）」で「エネルギー源として持続的に利用することができる」と認められるものと定義されている。太陽光、風力、水力、地熱、太陽熱、大気中の熱その他の自然界に存する熱、バイオマスが指定されている。

【里山】

人間によって管理・維持された森林や水田を含む複数の生態系が入り組んでいる地域一帯のこと。

【シェアサイクル】

シェアサイクルは、都市内に複数のポート（自転車の貸し出し・返却場所）を配置し、いつでもどのポートでも自転車の貸し出し・返却が可能な、短時間・短距離の移動を目的とした新しい都市交通システム。

【事業系ごみ】

事業活動により発生したすべてのごみのことで、「一般廃棄物」と「産業廃棄物」の2つに分類される。

【事業系ごみ減量マニュアル】

平成30年（2018年）策定の「第4次豊中市一般廃棄物処理基本計画」において、「令和9年（2027年度）までに、事業系ごみの排出量を約5千t削減する」目標に基づき、ごみ減量の進め方や廃棄物の適正処理など、事業者が目標への取組みに活用できる情報が掲載され

ているもの。

【集団回収】

市内の自治会・婦人会・子ども会・老人会・PTA・管理組合など営利目的でない団体が事前に登録し、地域で再生資源（新聞、布類、雑誌・雑がみ、ダンボール、紙パック、アルミ缶、スチール缶）を回収するしくみで、回収量に応じた報奨金を受け取ることができる。

【循環型社会】

ごみをなるべく出さずに、物質資源の再使用や廃棄物の再利用で、天然資源の消費量を減らし、環境負荷をできるだけ少なくした社会。従来の「大量生産・大量消費・大量廃棄型社会」に代わり、今後めざすべき社会像として、平成12年（2000年）に「循環型社会形成推進基本法」が制定された。

【省エネルギー（省エネ）】

使用するエネルギーをより少なくして、同じ効果を得ること。昭和54年（1979年）に「エネルギーの使用の合理化に関する法律」略称「省エネ法」が定められており、その中で「エネルギーを使用する者は、～中略～エネルギーの使用の合理化に努めなければならない」とあり、エネルギーを使用する事業者に省エネに取り組むことを求めるとともに、国民の理解と協力を求めている。

【庄内コラボセンター（ショコラ）】

南部地域の施設を統合し、地域の新たな拠点として令和5年（2023年）2月にオープンした施設。子育て支援センターや図書館等9つの施設が入居している。

【食品ロス】

食品廃棄物のうち、食べ残しや賞味期限切れに伴い廃棄されたものなど、本来食べられるにもかかわらず捨てられているもの。

【水素イオン濃度(pH)】

溶液中の水素イオンの濃度を言い、酸性やアルカリ性の程度を示す指標。pH7を中性、それ以上はアルカリ性、それ以下は酸性を示す。河川水は通常 pH5.8～pH8.5を示すが、汚染や植物プランクトンの光合成等の要因により酸性にもアルカリ性にもなる。

【スマートハウス】

太陽光発電等でエネルギーを作り、蓄電システムでエネルギーを貯め、外壁や窓等の断熱性能を高め、高効率な省エネルギー設備の導入により、エネルギー消費量を大幅に減らすとともにITを活用してエネルギーを賢く使う住宅のこと。

【生物化学的酸素要求量(BOD)】

水中の有機物が微生物の働きによって分解されるときに消費される酸素の量。河川の有機汚濁を測る代表的な指標で、数値が大きいほど水質汚濁が著しいことを示す。

【生物多様性】

生き物たちの豊かな個性とつながりのことで、これらの生命は一つひとつに個性があり、直接または間接的に支え合って生きている。「生態系の多様性」、「種の多様性」、「遺伝子の多様性」の3つのレベルの多様性がある。

た 行

【ダイオキシン類】

ポリ塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシン(PCDD)、ポリ塩化ジベンゾフラン(PCDF)およびコプラナーポリ塩化ジフェニル(Co-PCB)の総称。その発生源は廃棄物焼却のほか、燃焼工程を持つ製造業、農薬の不純物、PCB製品等が指摘されている。

【脱炭素社会】

温室効果ガスの排出量と吸収量・除去量が均衡し、実質ゼロとなる「カーボンニュートラル」を実現する社会。

【地球温暖化】

石油・石炭等の大量消費により、二酸化炭素やメタンなどの温室効果ガスの排出量が大幅に増加し、地球の気温が上昇すること。

【窒素酸化物(NO_x)】

一酸化窒素(NO)や二酸化窒素(NO₂)等窒素酸化物(NO_x)の総称。主に化石燃料の燃焼に伴って発生し、その発生源としては工場のボイラー等の固定発生源や自動車等の移動発生源がある。窒素酸化物は、酸性雨や光化学オキシダントの原因物質となる。

【低公害車】

電気自動車、燃料電池自動車、プラグイン・ハイブリッド自動車、天然ガス自動車、メタノール自動車、ハイブリッド自動車および低燃費かつ低排出ガス認定車という。

【低炭素社会】

地球温暖化の原因とされる二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出を抑制し、究極的には、温室効果ガスの排出を自然が吸収できる量以内にとどめるため、産業・行政・市民生活などあらゆる部門において、二酸化炭素の排出を最小限にするための取組みを進めていく社会のこと。

【適応(適応策)】

温室効果ガスの排出削減や吸収対策といった「緩和策」と併せ、気候変動の影響による被害の発生を抑制し、または被害を生じても速やかに回復できるよう事前に備えること。

【電気のCO₂排出係数】

電気によるCO₂排出量を算出するときに用いる数値。電気を使用する機器は直接CO₂を排出しないが、その電気を作っている発電所でCO₂を排出している。家庭や事業所等での電気の使用によるCO₂の排出量は、「電気使用量」に電気を供給する電力会社が算出する「排出係数」を乗じて算出している。排出係数は、電力会社の火力、原子力、水力等といった発電方法の割合によって異なり、毎年変動する。

【電力の自由化】

平成28年(2016年)4月1日以降、電力の小売業への参入が全面自由化され、家庭や商店も含む全ての消費者が、電力会社や料金メニューを自由に選択できる。

【透水性舗装】

雨水を多孔質な表層から路盤、路床に透水保水させる舗装のこと。雨天時の歩行快適性の向上、地下水の涵養のほか、間隙水の蒸散による路面温度上昇の緩和等の効果がある。

【豊肥(とよっぴー)】

豊中市の小学校の給食から排出される生ごみと街路樹などの剪定(せんてい)枝を緑と食品のリサイクルプラザで堆肥(たいひ)化し、できあがった豊中市独自の土壌改良材のこと。出来上がったとよっぴーは市民の手によって一般や環境学習に配布され、これを使って育てた野菜が学校給食の食材の一部として提供され、食の循環の輪が形成されている。

【豊中アジェンダ21】

市民・事業者・行政が「協働」と「パートナーシップ」により推進する行動計画で、豊中市における「ローカルアジェンダ21」に位置づけられている。行政計画である「豊中市環境基本計画」と両輪となって環境への取組みを進めるための計画で、平成11年(1999年)3月に策定された。平成30年(2018年)に第3次を策定し、令和5年(2023年)6月に改定された。

【豊中エコショップ制度】

廃棄物の発生抑制や再資源化等の環境に配慮した取組みを行っている豊中市内の店舗等を「豊中エコショップ」として豊中エコショップ制度運営協議会が認定し、事業者の環境への意識の高揚を図るとともに、市民に事業者の取組みについて周知することで、廃棄物の

減量等をよりいっそう推進することを目的に平成 25 年(2013 年)5 月 20 日に創設。

【とよなか公園魅力アップツリー事業（寄付樹木植樹事業）】

第 2 次豊中市みどりの基本計画の基本理念である「まちなかに人とみどりの笑顔があふれる豊中」の実現に向けた事業の一つとして、市民や事業者からの寄付で公園に樹木を植え、公園の魅力向上を図る事業。寄付により植樹される樹木には名前やメッセージを書いたプレートを設置できる。

【豊中市一般廃棄物処理基本計画】

「廃棄物処理法」および「廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例」に基づき、循環型社会の構築に向けて豊中市が取り組む基本施策と、市民・事業者・行政が取り組むべき基本方向を定めた計画。第 4 次計画は平成 30 年(2018 年)に策定し、「協働で取り組む循環型社会の構築」を基本理念として定め、減量目標として、令和 9 年度(2027 年度)に平成 28 年度(2016 年度)実績より焼却処理量を 8%削減させ、大阪府内自治体の上位水準を上回ることを掲げた。

【豊中市環境基本計画】

平成 7 年(1995 年)10 月に制定された豊中市環境基本条例に基づき、市のめざす目標と施策の枠組みを示す計画。「第 3 次豊中市環境基本計画」は平成 29 年度(2017 年度)に策定し、令和 9 年度(2027 年度)までの 10 年間で計画期間とし、市民・事業者・行政のパートナーシップのもとで総合的に環境問題に取り組むこととしている。

【豊中市環境審議会】

学識経験者・市民・事業者・市民団体などで構成されており、環境基本計画に関することや、環境の保全および創造に関する基本的事項を調査審議する市長の附属機関である。

【豊中市地球温暖化対策実行計画】

平成 11 年(1999 年)に施行された「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、市の事務・事業から排出される温室効果ガス排出量削減計画を定めた計画。第 4 次計画を平成 29 年度(2017 年度)に策定し、令和 4 年度に見直しを行った。これにより、令和 9 年度(2027 年度)までに、平成 25 年度(2013 年度)比 42%削減に向けた対策を進めることとしている。

【豊中市地球温暖化防止地域計画・チャレンジ^{マイナス}70 プラン】

「地球温暖化対策の推進に関する法律」「豊中市環境の保全等の推進に関する条例」に基づき、平成 19 年(2007 年)11 月に策定。平成 30 年(2018 年)3 月に第

2 次豊中市地球温暖化防止地域計画・チャレンジ^{マイナス}70 プランを策定し、市民 1 人あたり温室効果ガス排出量を平成 2 年度(1990 年度)比で令和 9 年度(2027 年度)までに 32.1%削減する目標を設定。

【第 2 次豊中市地球温暖化防止地域計画(改定)～とよなか・ゼロカーボンプラン～】

平成 30 年(2018 年)3 月に策定した「第 2 次豊中市地球温暖化防止地域計画(チャレンジ・マイナス 70 プラン)」を見直し、令和 4 年(2022 年)3 月に策定。市民 1 人あたり温室効果ガス排出量を平成 2 年度(1990 年度)比で令和 9 年度(2027 年度)までに 38.3%削減、令和 32 年度(2050 年度)までに実質ゼロにする目標を設定。

【豊中市みどりの基本計画】

平成 11 年(1999 年)5 月に策定された「都市緑地法」に基づく、市の緑地の保全および緑化の推進に関する基本計画。平成 27 年度(2015 年度)から 3 ヶ年かけて見直しが行われ、平成 29 年度(2017 年度)に、第 2 次豊中市みどりの基本計画が策定されている。

【とよなか市民環境会議】

豊中市において平成 8 年(1996 年)に、市民・NPO・事業者・行政が互いに協力し、地球環境を守るために発足した、市長を会長とするパートナーシップ組織であり、平成 28 年(2016 年)に 20 周年を迎えた。平成 19 年度(2007 年度)に、市域で積極的に環境活動に取り組む市民団体や事業者を表彰する「とよなかエコ市民賞」を創設したほか、市民・事業者・行政の行動計画である「豊中アジェンダ 21」を策定している。

【豊中市立環境交流センター】

環境情報サロンとリサイクル交流センターを統合し、平成 25 年(2013 年)4 月にオープンした施設。「NPO 法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21」が指定管理者として運営しており、地球環境の保全等に関する活動や教育のための交流の場として、情報の提供やイベントの開催等が行われている。

な 行

【ナッジ】

「nudge: そっと後押しする」という意味で、行動科学の知見を活用し、人々が自発的に望ましい行動を選択するよう促す仕掛けや手法のこと。ライフスタイルの自発的な変革を創出する新たな政策手法として実証実験等が進められている。

【二酸化いおう(SO₂)】

大気汚染物質のひとつ。いおう分を含む石炭や石油

等化石燃料の燃焼により生じ、呼吸器疾患等を引き起こす。四日市ぜんそく等の公害病の原因物質として知られているほか、酸性雨の原因物質ともなる。

【二酸化炭素(CO₂)】

動物の呼吸や、石油、石炭等の化石燃料の燃焼によって発生する気体。炭酸ガスともいう。大気の一成分であり、それ自体は有害ではないが、地上から放出される熱を吸収し、地球外に熱が逃げにくくなる働きがあるため、その濃度が高まると地球温暖化を招く。

【熱帯夜】

夕方から翌日の朝までの最低気温が摂氏 25℃以上になる夜のこと。このような日は夜間でも非常に暑くて寝苦しいので、暑さを表す指標として用いられている。

は 行

【パートナーシップ】

市民・NPO・事業者・行政などが、自分たちの役割や責務を自覚することを通じて築いていく、協力関係のこと。

【揮発性有機化合物(VOC)】

揮発性があり大気中でガス状となる有機化合物の総称で、浮遊粒子状物質および光化学オキシダントの原因物質の一部。塗料、印刷インキ、接着剤、洗浄剤等に含まれ、トルエン、キシレン、酢酸エチル等多種多様な物質が含まれる。

【ヒートアイランド(現象)】

都市部のできる局地的な高温域のことで、冷房などの空調排熱、コンクリートとアスファルト面の増大による蓄熱量の増加などにより温度が上がる現象。緑地、水面の減少による蒸散効果の減少も要因の一つ。等温線が島状になることからこの名前がついている。

【フードドライブ】

家庭で余っている食品(消費・賞味期限内)を持ち寄り、フードバンク等を通じて、それを必要としている福祉団体、施設に寄付する活動のこと。

ま 行

【窓断熱】

断熱機能を持たせた窓を設置すること。「断熱」とは、窓を通じて伝わる熱の量を小さくすること。伝わる熱の量が小さい窓は、夏に室温を上がりやすくし、冬は下がりやすくなる。

【みどり率】

樹林・樹木、草地、農地、水面(河川・水路やため池)、

屋上緑化の面積の合計が市域全体の面積に占める割合。豊中市が独自に設定した指標。

や 行

【有害大気汚染物質】

「大気汚染防止法」で、大気中に低濃度であっても長期間に渡ってばく露することにより健康影響が生ずるおそれがあると指定された物質。現在、248物質が指定されており、さらにそのうち健康リスクが高く優先的な排出抑制の取組みが必要な物質(優先取組物質)として23物質が指定されている。その中で5物質に環境基準が課せられている。

【余剰電力】

発電した電力のうち、自家消費した分を差し引いた残りの電力のこと。

ら 行

【リデュース、リユース、リサイクル】

「3R」ともいう。リデュースは「発生抑制」、リユースは「再使用」、リサイクルは「再生利用」のこと。廃棄物をできるだけ出さない社会をつくるための基本的な考え方。平成12年(2000年)に制定された「循環型社会形成推進基本法」では、廃棄物処理やリサイクルの優先順位を(1)リデュース(2)リユース(3)リサイクルとし、さらに(4)熱回収(サーマルリサイクル)(5)廃棄物の適正処理としている。

【緑地協定】

都市緑地法に基づき、地域の良好な環境を確保するため、土地所有者などの全員の合意により、市長の認可を受けて緑地保全または緑化に関する協定が結ばれる制度。

【緑被率】

樹林地、農地、公園緑地などみどりで覆われた土地(緑被地)の面積を、地域の行政面積で除した割合。豊中市では、樹林・樹木に覆われた土地の面積の合計が市域全体の面積に占める割合を緑被率と定義している。

数字・アルファベット

【NPO】

「Nonprofit Organization(ノンプロフィット・オーガニゼーション)」の略で、日本語では「民間非営利活動組織」と呼ばれている。平成10年(1998年)にはNPO法(特定非営利活動 促進法)ができ、法人として認められるようになった。活動分野は「福祉・保健」「教育」「環境」「文化」「人権」「国際協力」「消費」など。

【NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21】

平成8年(1996年)に発足した「とよなか市民環境会議」のワーキンググループから「とよなか市民環境会議アジェンダ21」として自立し、平成15年(2003年)にNPO法人格を取得した組織。

ピーディーシーエー

【PDCAサイクル】

計画(Plan)を立てて、実施(Do)した結果を、点検(Check)し、見直す(Act)、継続的改善を目的とした仕組み。

ピーエム

【PM2.5(微小粒子状物質)】

大気中に浮遊している $2.5\mu\text{m}$ 以下の小さな粒子。肺の奥深くまで入りやすく、呼吸器系および循環器系への影響が懸念されている。

エスディージーズ

【SDGs】

国連の「持続可能な開発サミット」(2015年9月)で採択された17のゴールと169のターゲットからなる開発目標のこと。それまでの開発目標には含まれていなかった平和や暴力等の課題、格差の拡大や環境問題等にも取り組む包括的なもの。各目標は密接に関連しており、経済、社会、環境の3つの側面のバランスのとれた、持続可能な開発をめざしている。

エスディージーズ

【SDGs未来都市】

地方公共団体によるSDGsの取組みをさらに推進していくため、モデルとなる先進都市を「SDGs未来都市」として内閣府が選定するもの。SDGsの理念に沿った基本的・総合的取組みを推進しようとする都市・地域の中から、特に、経済・社会・環境の三側面の統合的取組みによる相乗効果、新しい価値の創出を通して、持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域が選定される。

【ZEH】

ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)の略称。建物の高断熱化と高効率設備により、快適な室内環境と大幅な省エネルギーを同時に実現した上で、太陽光発電等によってエネルギーを創り、年間に消費する正味(ネット)のエネルギー量が概ねゼロ以下となる住宅のこと。

豊中市環境報告書
とよなかの環境
～2022 年度評価と今後に向けて

発行 令和6年(2024年)3月
編集 豊中市環境部ゼロカーボンシティ推進課
〒561-8501 豊中市中桜塚 3-1-1
TEL.06-6858-2128 / FAX.06-6842-2802
E-mail kankyoukeikaku@city.toyonaka.osaka.jp
ホームページ <https://www.city.toyonaka.osaka.jp/>
(本報告書から引用する場合は、出典の記入をお願いします。)
